

医療福祉論Ⅱ

担当教員 樋口 美智子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・医療保険制度の概要、保健医療サービスの概要について理解する。
- ・保健医療分野におけるソーシャルワーカーの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得する。
- ・保健医療サービスにおける多職種協働について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害の概念、生活障害とソーシャルワーク、家族の理解
2	危機状況に陥りやすい背景を持つ人々への援助
3	周産期における課題と援助
4	新生児期・乳幼児期・学童期における課題と援助
5	思春期・青年期における課題と援助
6	壮年期・老年期における課題と援助
7	ソーシャルワーク記録とは何か
8	ソーシャルワーク実践のための面接技法
9	ケース スタディ①
10	信頼関係を結ぶ面接技術①②
11	ケース スタディ②
12	核心をはずさない相談援助面接の技法①
13	核心をはずさない相談援助面接の技法②
14	ケース スタディ③
15	ターミナルケアにおける面接
16	補講・試験・追試験

【履修上の注意事項】

- ・医療ソーシャルワーカー志望者は履修が望ましい。
- ・医療福祉論Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

- ・出席日数、授業への参加姿勢、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

- ・特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

- ・大本・田中・大谷・笹岡著『医療ソーシャルワーク実践50例-典型的実践事例によるわかり易い医療福祉』、川島書店、1999年、川村隆彦著『支援者が成長するための50の原則-あなたの心と力を築く物語-』、中央法規、2007年、村上・大垣編『実践的医療ソーシャルワーク論』、金原出版、2009年

介護概論

担当教員 長嶺 利子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

少子・高齢社会の進展に伴い介護問題は、社会福祉事業の重要な課題とされる。そのことから、社会福祉構造の変遷と介護の推移、介護問題（フォーマル・インフォーマル）や介護の専門性・理論性・原理性と要介護者の理解、生活（QOL、自立）支援並びに関係職種・関係機関とのチームワーク・ネットワークの関わりや地域福祉との今後の課題等々を理解し、人間福祉に関する専門知識、援助態度を養う。

【授業の展開計画】

テキストによる講義主体とする。テキストにない授業内容については、プリント資料をもって行う。介護の基本・地域保健・福祉の理解を深めるため、課題提出とグループワークやミニテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション・学生理解（アンケート）、社会福祉士が介護を学ぶ意義
2	介護の目的（原則、倫理）自立に向けた介護、尊厳を支える介護、歴史、提供場所や対象等
3	介護と社会福祉、家政、看護・医療との関係
4	援助関係の基本（援助関係の理解、利用者の理解）
5	介護関係維持のための技法、観察、コミュニケーション
6	記録と情報の共有（目的、留意点、種類等）、医療・看護・福祉専門職との連携
7	介護過程（意義、目的、必要性、基本的要素や展開、チームアプローチ等）
8	生活支援技術の基本、自立支援と介護、住生活環境の整備
9	福祉用具の活用と関連する法律、目的、種類等
10	食事の介護、排泄の介護
11	衣服の着脱、清潔、体位変換・移動の介護
12	社会生活の維持、健康な生活習慣、医療的対応が必要な利用者への介護
13	緊急事故時の対応、介護家族への支援、終末期の支援
14	障害の理解と対応（視覚・聴覚に障害のある人への理解と対応）
15	精神に障害のある人への理解と対応、認知症高齢者の理解と対応
16	学期末試験（筆記）

【履修上の注意事項】

テキスト持参、予習・復習、提出物、目的意識を持って参加する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の得点、課題及びレポートを総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉学習双書2013《第15巻》「介護概論」 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 2013年

【参考文献】

新しい介護 講談社 2007年、介護実習指導者テキスト 全国社会福祉協議会 2012年
介護福祉士初任者のための実践ガイドブック日本介護福祉士会初任者研修テキスト 中央法規2007年

家族社会学 I

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」とは何かを考え、どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。「家族なるもの」と「家族であること」について考察する。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス、家族とは何か
02. 定常型社会と現代家族
03. 贈与交換と家族
04. 〈子供〉の誕生
05. 母性という神話
06. 恋愛・結婚・性愛
07. 日本における近代家族の生成
08. 戦後の日本の社会変動と家族
09. 沖縄における近代家族の生成
10. 戦後の沖縄の社会変動と家族
11. 守姉
12. 男らしさのボックスと経済ピラミッド
13. 家族システムとダブルバインド
14. 家族とアディクション
15. コミュニティと家族
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが力になります。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学Ⅱ

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」を社会的に読み取る力をつける。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス、家族を考える視点
02. 家族の構造
03. 贈与交換と家族
04. コミュニティと家族
05. ジェンダーと家族
06. ダブルバインドと家族
07. 生と死
08. 家族とアディクション
09. メディアから家族を読み解く (1)
10. メディアから家族を読み解く (2)
11. メディアから家族を読み解く (3)
12. メディアから家族を読み解く (4)
13. 家族と向き合う (1)
14. 家族と向き合う (2)
15. これからの家族
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが力をつけます。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族心理学

担当教員 井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「家族」の定義や機能は、社会とともに変容してきた。この講義では、「家族心理学」という新しい学問領域から「家族」という小集団をとらえ、家族理解の鍵となる理論や概念、全体をシステムとしてとらえる見方・考え方について解説する。また、家族療法の理論を学び、家族療法の実際をDVD等で視聴することによって、家族とともに展開する家族臨床の実践について、事例を交えながら紹介する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	家族とは何か
2	家族心理学の今日的テーマ
3	家族の中の関係性
4	家族を理解するための鍵概念 (1)
5	家族を理解するための鍵概念 (2)
6	家族を理解するための鍵概念 (3)
7	家族システム理論 (1)
8	家族システム理論 (2)
9	家族システム理論 (3)
10	家族イメージと家族関係
11	家族の発達と多世代理論
12	家族関係への心理的援助 (1)
13	家族関係への心理的援助 (2)
14	家族療法の実際 (1)
15	家族療法の実際 (2)
16	まとめと試験

【履修上の注意事項】

主体的な態度・姿勢で学ぶこと。教室内では積極的に発言を促すので留意すること。

【評価方法】

出席状況、課題の提出状況、学期末の試験の結果を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回、資料を配布する。

【参考文献】

平木典子・中釜洋子「家族の心理」サイエンス社
中窯・野末・布柴・無藤「家族心理学」有斐閣

外国語演習 I

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき、原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって、原書を読む楽しさを学び、理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	精神保健
3	精神保健
4	精神保健
5	心理アセスメント
6	心理アセスメント
7	カウンセリング
8	カウンセリング
9	カウンセリング
10	集団心理療法
11	集団心理療法
12	集団心理療法
13	虐待、DV、神話
14	虐待、DV、神話
15	全体のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

Gelso, C. J. & Fretz, B. R. (1992) Counseling Psychology. Harcourt Brace College Publisher.
その他、参考文献は講義の中で紹介する。

外国語演習 I

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、心理学の入門書『The social animal』（英文）を読み、そこで使われる文法や用語の使い方を理解して、語学力を身に付けることを第一の目的とする。まずは、語学力を身に付けることを目的としているが、同時に、心理学の専門的知識を得ることも目指したい。語学の授業であるので、特に、授業への積極的参加を期待したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1 What is social psychology の1ページ～2ページ25行目まで
2	1 What is social psychology の2ページ26行目～3ページ27行目まで
3	1 What is social psychology の3ページ28行目～4ページ24行目まで
4	1 What is social psychology の4ページ25行目～5ページ32行目まで
5	1 What is social psychology の5ページ33行目～6ページ28行目まで
6	1 What is social psychology の6ページ29行目～7ページ25行目まで
7	1 What is social psychology の7ページ26行目～8ページ29行目まで
8	1 What is social psychology の8ページ30行目～9ページの最後まで
9	2 Conformity の11ページ～12ページ16行目まで
10	2 Conformity の12ページ17行目～13ページ26行目まで
11	2 Conformity の13ページ27行目～14ページ40行目まで
12	2 Conformity の14ページ41行目～15ページの最後まで
13	2 Conformity の16ページ～17ページ27行目まで
14	2 Conformity の17ページ29行目～18ページ30行目まで
15	2 Conformity の18ページ31行目～19ページ36行目まで
16	試験

【履修上の注意事項】

必ず辞書を持参すること（電子辞書可。携帯電話は不可）

【評価方法】

試験（30点）、小テスト10回程度（各3点、合計30点）、課題（30点）主席状況等の平常点（10点）等を総合的に考慮して評価する。5回以上欠席した場合は、単位は与えられない。20分以上遅刻した場合は欠席扱いとする。また、遅刻の場合は、3回で1回欠席とする。

【テキスト】

Elliot Aaronson 2011 The Social Animal 11th Edition Worth Pub

【参考文献】

必要に応じて、授業の際に紹介する。

外国語演習 I

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

外国語演習Ⅰで学んだものを元に、英語で書かれた研究論文を読みこなすことができることがこの授業のねらいである。さらに、最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	心理学関連トピック 原書講読
3	心理学関連トピック 原書講読
4	心理学関連トピック 原書講読
5	心理学関連トピック 原書講読
6	DSM5 原書講読
7	DSM5 原書講読
8	DSM5 原書講読
9	DSM5 原書講読
10	研究論文 原書講読
11	研究論文 原書講読
12	研究論文 原書講読
13	研究論文 原書講読
14	研究論文 原書講読
15	全体のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

American Psychiatric Association. (1994). Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: Fourth Edition. その他、参考文献は講義の中で適宜紹介する。

外国語演習Ⅱ

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

学習心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎過程の変化である。本講義では、学習心理学の歴史や現状について概説した上で、基本的な学習形態の1つである古典的条件づけを中心に、基本原理や関連する基本的概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。また、学習心理学と関連の深い記憶研究についても概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション/学習心理学とは
- 2 学習心理学の歴史と心理学の中での位置づけ
- 3 //
- 4 記憶の情報処理モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）
- 5 //
- 6 記憶の定着（リハーサルと符号化）
- 7 記憶の忘却
- 8 生得的行動パターン
- 9 馴化の基本原理
- 10 古典的条件づけの基本原理
- 11 //
- 12 高次条件づけ
- 13 古典的条件づけの臨床への応用
- 14 //
- 15 古典的条件づけにおける生物学的制約 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学 I、II を続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が 2 / 3 に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著 磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ 2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学習心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、基本的な学習形態の1つであるオペラント条件づけに関して概説する。また、より洗練された学習形態である観察学習についても概説する。それぞれにおいて基本原理や基本概念、臨床への応用や、我々の日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 オペラント条件づけの基本原理
- 3 "
- 4 オペラント条件づけの生物学的制約
- 5 "
- 6 強化スケジュール
- 7 "
- 8 回避と罰
- 9 "
- 10 オペラント条件づけの理論と研究
- 11 "
- 12 模倣理論
- 13 パーソナリティ形成と観察学習
- 14 恐怖症や認知的発達と観察学習
- 15 観察学習の臨床への応用 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学Ⅰを先に履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」 ジェームズ・E・メイザー著 磯 博行/坂上貴之/川合伸幸 訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学校臨床心理学

担当教員 牛田 洋一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学校における児童・生徒の成長・発達への臨床心理学的援助や学校コミュニティへの援助を進めるための基礎的知識を習得することを目的としている。また、スクールカウンセラーとしての視点から援助を進める上で、学校組織とどのように協調していくかについても検討していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは
2	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（1）
3	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（2）
4	学校臨床心理学の先進国（1）：アメリカにおける学校心理学
5	学校臨床心理学の先進国（2）：アメリカのスクールサイコジストとスクールカウンセラー
6	学校コミュニティにおける緊急支援（1）
7	学校コミュニティにおける緊急支援（2）
8	学校臨床最前線から（1）いじめ
9	学校臨床最前線から（2）スクールカウンセラーと学校現場
10	学校臨床最前線から（1）不登校
11	学校臨床最前線から（1）思春期の自傷行為
12	学校での今日の問題（1）：発達障害
13	学校での今日の問題（2）：選択性緘黙
14	学校での今日の問題（3）：その他の問題
15	まとめ：学校臨床心理学とは
16	試験

【履修上の注意事項】

臨床心理学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。講義の単元ごとに資料を配付する予定である。

【参考文献】

講義時に適宜紹介していく。

基礎演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学の講義・演習で求められるレポート作成やゼミ発表等々の方法を学ぶと共に、大学の勉強の特徴について理解する。

ゼミメンバーどおしが高めあい、互いに成長しあえる環境の中で、視野を広げる場になることを期待する。

【授業の展開計画】

2年次以降、様々な場面で自分で調べたことを発表することから、基礎演習ではその練習を行う。具体的には、レジュメおよびパワーポイントを作成すること、また、実際に発表を行い経験を積むことである。合わせて、質問のしかたについても実践を通して学ぶ。

【履修上の注意事項】

本科目は、学生に求められる基礎的な学習方法および発表方法を共に学ぶ場です。ひとりひとりが積極的にゼミ活動に参加し、学ぶ姿勢を身につけていきましょう

【評価方法】

出席、ゼミ活動への参加度、レポートなどの提出状況、

【テキスト】

随時、資料を配付する予定

【参考文献】

基礎演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の目的は各自の大学生活へのスムーズな適応や、有意義な大学生活が送れるよう、基礎的能力を養うこととする。

【授業の展開計画】

演習計画については、初回の演習時に説明を行う。講義期間中には「合同ゼミ」が何度か予定されている。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	文献を使いこなす・文献の探し方 I
3	研究論文の読み方 I
4	研究論文の読み方 II
5	レポートを書く技術 I
6	レポートを書く技術 II
7	専門演習について I
8	専門演習について II
9	口頭発表の仕方
10	グループ発表 I
11	グループ発表 II
12	グループ発表 III
13	グループ発表 IV
14	グループ発表についての振り返り
15	講義全体の振り返り
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしない。

【評価方法】

出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年

【参考文献】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
演習に応じて適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習

担当教員 知名 孝

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。

【授業の展開計画】

専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するものとの授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。

【履修上の注意事項】

調べ学習、発表、グループワーク、ボランティア実習などさまざまなゼミ活動を行っていく。

【評価方法】

ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

【参考文献】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

基礎演習 A

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。前期は大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主となる。学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などである。ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの基礎力を身につけていく。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。
大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。
基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
 - 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
 - 3、レポートの書き方についてのワーク
 - 4、大学で「学ぶ」とは
 - 5、キャリア形成についてのワーク
- 他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前・後期を通じて、大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主になります。大学生としての学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聴き、自分の意見をきちんと述べる）、などがあげられます。

ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの力を身につけていくのが目標です。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明します。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の2冊をあげておきます。

藤田哲也 編著 2006 大学基礎講座—改増版 北大路書房

溝上慎一 2006 大学生の学び・入門 有斐閣アルマ

基礎演習 A

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、聞いたことや調べたことを文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、相手の意見を聞き討論する力などである。ゼミ生全員で1つのテーマについて語り合ったり、個別テーマを設定してレポートを書き、発表したりする機会を通して学ぶことの面白さを発見しながら、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力を修得していきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、大学生活への適応支援と大学で学ぶための力（基本的スキル）と心理学と日常を結びつけて考える視点を身につけることを目的とする。

後期は、大学で学ぶための力をさらに高めていく。特に、心理学の知識と日常を結びつけて考える課題に取り組むゼミ活動が主となる。前期に身につけた学びの力を活用し、心理学の主要なテーマについて、調べ、読み、考え、話し合い、書き、発表する。ゼミの参加者全員で、課題に主体的に取り組むことで、大学生活への適応を促し、学ぶ力を高め、心理学と日常を結びつけて考える視点を身につけていく。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは、特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は、講義時に適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前期の学びを通して、大学への適応力と大学で学ぶための基礎力とを身につけてきていると思われます。後期のゼミでは、心理学の理論や用語、思考法を用いて、日常の心理学的現象を説明する力を身につけます。具体的には、個別ゼミでグループごとに調べ学習を行い、学習成果の発表会を行います。その際、(1)心理学理論を日常の心理現象に適用する課題と、(2) (1)とは逆に日常の心理現象から心理学の概念や理論を導く課題、この2種類をグループワークを通して学んでいきます。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義時に説明します。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

- ・ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価します。
- ・遅刻や欠席等、出欠状況が特に重視されます。
- ・ライティング課題など、きちんと課題をこなし、提出することが評価の前提となります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の2冊をあげておきます。

藤田哲也 編著 2006 大学基礎講座一増版 北大路書房

溝上慎一 2006 大学生の学び・入門 有斐閣アルマ

基礎演習 B

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で身につけた基本的な学習スキルを活用して、さらに学びを深めていくことを目的とする。後期は、心理学の理論・学術用語をわかりやすく解説したり、日常生活で体験する出来事を心理学の理論・学術用語で説明したりするような課題を通して、必要な情報を収集・検索する力、文献を読みこなす力、調べたことをまとめたり、発表したりする力、相手の意見を聞き討論する力などを育成する。これらの課題を通して、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力をより向上させていきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。特に、基礎演習 B では、A の「書く」力に加えて、心理学の重要用語を取り上げて「調べる」「まとめる」「発表する」力をつけることを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
- 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
- 3、レポートの書き方についてのワーク
- 4、キャリア形成のワーク

他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題提出・発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

適宜、紹介する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

キャリア・カウンセリング

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、キャリア・カウンセリングを学ぶのに不可欠な心理学的な視点を理解し、心理学の基礎知識を持つことを目的とします。講義の中では、キャリア・カウンセリングの土台となるキャリアに関する心理学の理論やアプローチを学びます。キャリア教育や産業カウンセリングを学ぶことにより、キャリア・カウンセリングの実践・応用について理解を深めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	キャリア発達の各アプローチ
3	ドナルド・スーパー 「ライフ・スパン/ライフ・スペース理論的アプローチ」
4	ジョン・ホーランド 「6角形モデル」
5	ジョン・クルンボルツ 「学習理論」「社会的学習理論」
6	ハリィ・ジェラット 「意思決定アプローチ」
7	エドガー・シャイン 「組織心理学」「キャリア・アンカー」
8	ナンシー・シュロスバーグ 「トランジッション」
9	ダグラス・ホール 「関係性アプローチ」
10	サニィ・ハンセン 「統合的生涯設計」
11	マーク・ザビカス 「キャリア構築理論」
12	キャリア教育
13	キャリア教育
14	産業カウンセリング
15	産業カウンセリング
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。授業中の携帯使用不可。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況，受講態度，課題を総合的に評価する。

【テキスト】

渡辺 三枝子 (2009) 「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」
ナカニシヤ出版

【参考文献】

Richard N Bolles (2011) What Color Is Your Parachute? 2011: A Practical Manual for Job-Hunters and Career-Changers

教育心理学 I

担当教員 竹村 明子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

教育心理学Ⅱ

担当教員 竹村 明子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

グループアプローチ

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

グループアプローチとは個人の心理的治療・教育・成長・個人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として、グループの機能・過程・ダイナミクス・特性などを用いる各種技法の総称とされている。この講義では、主に対人親密化過程の促進、シャイネスや対人緊張の改善など、コミュニケーションの問題に焦点を当て、実技を通して体験的に学ぶことをねらいとする。実技では、対人交流を焦点にあてた技法を用いるが、後半は心理劇的ロールプレイング技法を用いた技法も紹介する。グループアプローチの技法を身につけたい方、自分自身のコミュニケーションの課題を改善したい方にぜひ受講してほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	対人交流の促進を目的としたグループワーク①
3	対人交流の促進を目的としたグループワーク②
4	対人交流の促進を目的としたグループワーク③
5	対人交流の促進を目的としたグループワーク④
6	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク①
7	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク②
8	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク③
9	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク④
10	ロールプレイングを用いた技法①
11	ロールプレイングを用いた技法②
12	ロールプレイングを用いた技法③
13	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法①
14	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法②
15	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法③
16	まとめ（グループアプローチの理論とレポート課題の説明）

【履修上の注意事項】

講義は実習を中心に行われる。場所は厚生会館のホールを使用することが多い。多少体を動かすプログラムが予定されているため、それにふさわしい服装で参加すること。プログラムへの参加を通して、受講学生同士が互いに交流する機会も多い。グループアプローチの理論や技法を学びたい学生はもちろんのこと、シャイネスや対人緊張の改善や、他者との関わりの中での自己への気づきを目的に受講する学生も歓迎している。就職活動の自己分析にも利用してほしい。

【評価方法】

体験型の講義であるため、まずは実習で行うプログラムに参加することが重要となる。プログラムにおける他者の関わりのある方については、評価の対象としない。どのようにかかわったのかという目に見える結果より、プログラムを通して何を感じ、何を考えたのかを重視する。毎回のプログラムでの体験の振り返りシートおよび、講義終了後の感想レポートを総合して評価する。

【テキスト】

講義では使用しない。
適宜、プリント資料を配布する。

【参考文献】

サイコドラマの技法 高良聖 岩崎学術出版

健康スポーツ科学論

担当教員 一笹澤 吉明

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

健康・スポーツ科学に関する基礎的理論、すなわち、健康、体力、肥満・痩せ、栄養、運動・トレーニング等を学び、自身や家族の生涯に亘る健康管理に役立て、将来、健康・スポーツ関連の指導者としての実践に応用する基礎を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（スポーツ科学、健康科学に関する理論の必要性とその意義）
2	健康とは①（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
3	健康とは②（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
4	適切な生活習慣①（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
5	適切な生活習慣②（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
6	肥満・痩せと生活習慣病（生活習慣病と肥満、肥満を解消する運動と食事）
7	健康・体力の維持増進①（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
8	健康・体力の維持増進②（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
9	競技スポーツのトレーニング①（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
10	競技スポーツのトレーニング②（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
11	栄養と健康・スポーツ①（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
12	栄養と健康・スポーツ②（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
13	運動・スポーツの安全性（体温調節、熱中症、ウォーミングアップ、ストレッチング）
14	運動・スポーツによる外傷、障害（スポーツ障害と予防、救命救急、応急処置）
15	女性・高齢者の健康とスポーツ（女性・高齢者の運動の重要性、女性、中・高齢者の生理的特徴）
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する

【テキスト】

健康・スポーツ科学の基礎 出村慎一著 杏林書院

【参考文献】

講義で適宜紹介

権利擁護と成年後見制度

担当教員 一島田 考人

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 高齢者・障害者支援の必要性を学ぶ
- 2 高齢者・障害者支援のための法制度の仕組みを学ぶ
- 3 社会福祉士試験対策

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の目的、講義の内容、評価方法 等について
2	相談援助活動において想定される法律問題
3	日本国憲法の基本原理の理解
4	民法の理解(1)
5	民法の理解(2)
6	民法の理解(3)
7	行政法の理解
8	成年後見の概要
9	補佐の概要
10	補助の概要
11	権利擁護における組織、団体の役割
12	権利擁護活動の実際(1) 一多重債務者への支援
13	権利擁護活動の実際(2) 一被虐待者への支援
14	権利擁護活動の実際(3) 一障害者への支援
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、講義中の参加態度、試験によって評価する

【テキスト】

【参考文献】

芸術療法

担当教員 中山 さおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

現代社会と福祉

担当教員 保良 昌徳(前期)、岩田 直子(後期)

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

更生保護制度

担当教員 比嘉 昌哉、その他非常勤教員

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

法を犯した者が償いを終えて生きる場は、社会・地域であり、その人たちの立ち直りは地域で完結する。更生保護とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを支援し、地域生活を定着してもらうための支援あり方である。この授業では、那覇保護観察所からの講師派遣協力のもと、司法機関・制度、更生保護施設、精神科医療における医療観察制度、就労支援を含む地域生活支援のための支援機関と更正保護行政について触れていく。

【授業の展開計画】

この授業は、1単位全8回の講義を予定している。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・更正保護制度とは
2	更生保護制度の概要Ⅰ：刑事司法の中の更生保護、仮釈放など
3	更正保護制度の概要Ⅱ：保護観察、生活環境の調整など
4	更正保護制度の概要Ⅲ：更生緊急保護、犯罪被害者施策など
5	更生保護制度の担い手と関係機関・団体との連携
6	医療観察制度の概要
7	更正保護の実際と今後の展望
8	テスト
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。毎回講師(那覇保護観察所職員)が異なるので質問等があれば、その都度、積極的に尋ねること。新聞等で取りあげられる更生保護に関する記事には関心をもち、可能ならばスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委(2010)：『新・社会福祉士養成講座20 更生保護制度(第2版)』、中央法規。

【参考文献】

授業時に適宜示します。

行動療法

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について概説する。認知行動療法は、近年、その効果が科学的に実証され世界的に最も用いられることが多い心理療法である。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉など広範囲に適用されている所以を理解することをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	行動療法とは
2	行動療法の歴史
3	行動療法の基礎となる学習理論
4	行動療法の技法①系統的脱感作法
5	事例
6	行動療法の技法②リラクゼーション法
7	行動療法の技法③暴露反応妨害法
8	事例、行動療法の技法④応用行動分析・事例
9	社会的学習理論、行動療法の技法④ソーシャルスキルトレーニング
10	認知行動療法とは、
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み
12	認知行動療法の技法①：非機能的思考記録
13	認知行動療法の技法②：セルフモニタリング、思考停止法、他
14	アルコール依存の認知行動療法①
15	アルコール依存の認知行動療法②
16	テスト

【履修上の注意事項】

授業の事前準備として、参考文献は一読しておくこと。
 板書されたことはもちろん、授業中に話したことは、必ずノートに取ること。
 授業中の私語、携帯電話の使用は当然、認められない。

【評価方法】

成績は、授業への参加状況、学年末試験によって総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

行動療法 内山喜久雄 著 日本文化科学社 1700円
 認知行動療法の理論と実際 岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二 共編 培風館 3700円

高齢者に対する支援と介護保険制度

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は前期／高齢者の特性を中心とした講義を展開し、後期は介護保険制度を中心とした講義を展開する。

【授業の展開計画】

講義の展開については、前期後期共に第1回目の講義オリエンテーション時に説明する。

【履修上の注意事項】

前期・後期の初回の講義オリエンテーションには必ず出席すること。出席しない場合には登録を取り消すことがあるので注意してください。

【評価方法】

客観試験を中心として評価するが、原則講義の3分の2以上の出席を原則とする。欠席3分の1以上の場合には客観試験を受験することはできません。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座13「高齢者に対する支援と介護保険制度」

【参考文献】

参考文献等については、講義の中で随時紹介する。

国連の機構と活動

担当教員 高嶺 豊

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

コミュニティ心理学

担当教員 大嶺 和歌子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①我々の生活で起きる問題をコミュニティという枠組みで捉えるコミュニティ心理学を紹介する。
 ②社会的文脈に人間存在を位置づけることで、人が本来もっている強さとコンピテンスを重視する。エンパワメント等を紹介し、問題解決への選択肢を拡げることがを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	コミュニティ心理学の理念①：コミュニティ心理学の定義と理念
3	コミュニティ心理学の理念②
4	人と環境の適合—生態学的アプローチ①
5	人と環境の適合—生態学的アプローチ②
6	予防：予防の種類・事例・倫理的問題
7	ストレスとレポートの書き方
8	中間試験
9	危機介入とコンサルテーション
10	ソーシャルサポートとセルフヘルプとコーピング
11	エンパワメント：定義
12	エンパワメント：具体例と批判
13	コミュニティ感覚と市民参加：コミュニティ感覚
14	コミュニティ感覚と市民参加：市民参加
15	理論と実践の連携
16	期末試験

【履修上の注意事項】

教科書必携

【評価方法】

中間試験はレポートを50点配分で行い、期末試験は穴埋め式のテストを50点配分で行う。
 中間試験と期末試験の得点を合算して評価を行う。評価＝中間試験（50点）＋期末試験（50点）
 出席は講義前に点呼等で行う。講義に5回以上欠席したら受験資格はない。

【テキスト】

植村勝彦 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

社会科学研究法

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、社会の出来事を論理的に考察し、表現するための技能を習得することである。専門的な分野も含めた情報収集の方法や、集めた情報をもとに考察したことを論文として書き表す方法を学び、社会福祉士として必要なレポート作成力を身につける。

【授業の展開計画】

本講義では、宿題も活用しながら、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。最初に学術論文を読んでどんな文章を書けばよいかを把握し、論文の書き方について講義した後、各々のテーマで文献調査し、レポートを作成する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（宿題あり。配布された卒業生の卒論コピーを読んでくること。）
2	宿題に出した卒論を解説
3	社会的な出来事について「知り」「考え」「伝える」とはどういうことか
4	社会的な出来事について「知る」方法（1）—リアリティの捉え方
5	社会的な出来事について「知る」方法（2）—文献調査のしかた
6	社会的な出来事について「考える」方法—どう情報を整理するか
7	社会的な出来事について「伝える」方法—効果的な論文執筆のルール（3～7週にかけて宿題あり。）
8	「今、自分が興味を持っていること」について1分スピーチ
9	文献調査～レポート作成の作業
10	文献調査～レポート作成の作業
11	文献調査～レポート作成の作業
12	文献調査～レポート作成の作業
13	文献調査～レポート作成の作業
14	文献調査～レポート作成の作業
15	授業の最後に期末レポート提出
16	期末レポート返却・講評

【履修上の注意事項】

授業では実際に論文を作成する作業をしている時間が長いので、その作業にきちんと参加すること。

【評価方法】

課題（学期途中での提出物）を30%、期末レポートを70%とし、出席状況も考慮しながら評価する。

【テキスト】

適宜、配布する。

【参考文献】

朝日新聞社『勉強のやり方がわかる』AERA Mook ; 98、2004年。
今田高俊編『社会学研究法・リアリティの捉え方』有斐閣、2000年。

社会学概論 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会学概論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会心理学 I

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見，理論，研究方法，および，著名な研究者などについて概説し，「心理学検定」に合格できるような基礎知識の習得を目指します。取り上げるテーマは，自己，対人認知，態度，対人行動，友情と恋愛，を予定しています。受講生の要望等もふまえながら，なるべく日常的で身近な心理現象や話題を題材として講義を展開していきたいと考えています。そうした身近な事象を社会心理学的な視座から読み解いていくことを通して，科学的・客観的なものの見方・考え方を養っていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	自己とは何か？～自己過程の心理学(1)～
3	自己を知るとは？～自己過程の心理学(2)～
4	他者を知るとは？～対人認知の心理学(1)～
5	他者を知るプロセスとは？～対人認知の心理学(2)～
6	原因を求める心～帰属過程の心理学～
7	態度と態度変容(1)～態度の概念・測定法・理論を中心に～
8	態度と態度変容(2)～依頼・勧誘・説得の社会心理学～
9	対人行動の動機と対人魅力とは？～対人行動の心理学(1)～
10	対人関係の形成・維持に関わる要因とは？～対人行動の心理学(2)～
11	対人関係の葛藤・ストレス・コーピング～対人行動の心理学(3)～
12	友情・愛情・友人関係とは？～友人関係の心理学～
13	人を好きになる心とは？：恋愛関係の進展を中心に～恋愛の心理学(1)～
14	人を好きになる心とは？：恋愛関係の不和・崩壊を中心に～恋愛の心理学(2)～
15	全講義内容のまとめと試験案内
16	学期末試験（予定）

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義では，履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行います。よって，欠席した学生の履修仮登録は，原則として取り消しますので，履修登録希望者は第1回目講義への出席が必須条件となります。
- ・学期末課題は，論述式の試験(持ち込み不可)を予定していますが，レポート課題に変更することもあります。
- ・授業への積極的な参加(個人や全体に向けて質問や発言)を求めます。私語や携帯，途中入退室等は厳禁です。
- ・授業の展開計画は，講義内容を含め，変更する場合があります。

【評価方法】

- ・成績評価は，出席状況15%，参加態度30%，学期末課題55%の内訳で，これらを総合評価して行います。ただし，いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に，毎回提出を求めるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については，試験実施の場合，参考書や資料等の持ち込みを一切不可として行います。レポート課題を課す場合は，授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず，毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子 2010 社会心理学 有斐閣
 岡本浩一 1986 社会心理学ショート・ショート 新曜社
 ※上記2冊の他，授業内でほぼ毎回，関連文献を紹介します。

社会調査の企画と設計

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、Ⅱではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行なう。実践的な社会福祉（ソーシャルワーク）、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）と質的調査の関連性、重要性を前提に内容を展開していきたい。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を発表してもらおう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査法Ⅱへの招待
2	標本抽出（サンプリング）の理論
3	サンプリングの種類
4	サンプリングの実際
5	質的調査の考え方
6	質的調査の種類
7	質的調査の諸注意
8	ドキュメント分析と観察法
9	生活史法とライフコース分析
10	面接とインタビューの技法
11	調査実施の際の諸注意
12	個別研究テーマの発表・提出
13	調査の企画と設計の提出
14	調査実施の効果とふりかえり
15	総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

講義形式で進めるが、調査票作成及び調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、及び活動には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、グループ参加状況、調査報告内容及び試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年

【参考文献】

特に指定はしないが、随時紹介する。

社会調査の基礎

担当教員 一住 直広

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコールの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の種類（量的調査と質的調査）
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

提出物（論文・レポートなど）、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
 根本博司、他編著、『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』、中央法規、2001年
 天田城介、他編著、『社会調査の基礎』、中央法規、2009年、講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する

【参考文献】

ダレル・ハフ、『統計でウソをつく方法—数式を使わない統計学入門』、講談社（ブルーバックス）、1979年
 谷岡一郎、『「社会調査」のウソ—リサーチ・リテラシーのすすめ—』文藝春秋（文春新書）、2000年
 好井裕明、『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス—』光文社（光文社新書）、2006年

社会調査の基礎

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の基本的な道具
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが望ましい。

【評価方法】

レポート、試験、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房

【参考文献】

随時講義の中で紹介していく。

社会統計学 I

担当教員 一宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会統計学Ⅱ

担当教員 一宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会福祉学基礎

担当教員 前期：砂川亜紀美、後期：木内寛長、伊井統章、上江田静江

対象学年 1年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は人間福祉学科学生に対して、「社会福祉学」の導入として提供するものである。社会福祉の目的は、生活上の様々な困難を抱えている人や家族を援助し、それらの人々の自己実現を図ることである。したがって、社会福祉の制度を学ぶだけではなく、それらの社会福祉制度を活用しつつ、どのような対人援助の方法、技術が必要なのかについて学ぶ。

【授業の展開計画】

オムニバス形式で講義を行う。
講義の詳細は各教員担当コマの初回に説明する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1		17	
2		18	
3		19	
4		20	
5		21	
6		22	
7		23	
8		24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16			

【履修上の注意事項】

知識や経験を共有しあう場となるよう主体的に取り組むことを期待する。

【評価方法】

出席状況を基本とし、各担当教員からの小レポート提出状況、活動への参加態度、レポート提出等により総合的に評価する。

【テキスト】

講義の中で適宜紹介していく。原則として、各教員が随時資料を配付する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介していく。

社会福祉の基礎

担当教員 安次富 (2) クレイグ (2) 知名 (2) 小柳 (2) 保良 (2) 桃原 (2) 岩田 (2) 比嘉 (2)
安次富 郁哉

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は一年生の必修科目であり、社会福祉専攻教員が2コマずつ担当し、社会福祉についてそれぞれの研究領域から教示する。

【授業の展開計画】

第1回目の講義オリエンテーション時に詳細を提示する。なお、第1回目の講義オリエンテーションは必ず出席するようにしてください。

【履修上の注意事項】

本講義は複数教員で行います。また、講義のねらいでも記述しましたが、各教員がそれぞれの専門領域の範囲内で社会福祉について教示します。将来の目標設定の参考にならうかと思しますので、真剣に取り組むようにしてください。

【評価方法】

講義への出席状況及び各教員の課題（レポート等）の提出をもって総合評価します。

【テキスト】

特に指定しません。各教員独自の資料を配付提供する予定です。

【参考文献】

担当教員が講義の中で随時紹介します。

社会保障

担当教員 安次富郁哉（16回） 青山喜佐子（8回）、比嘉邦子（8回）

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義のねらいは、「①社会保障の概念や体系について理解する。②少子高齢社会を背景とした、わが国における社会保障制度の課題について理解する。③医療保険、年金保険、労働保険、介護保険等について具体的な内容を理解する。」である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 安次富	17	年金保険制度① 沿革 比嘉
2	社会保障制度の課題・概念・体系 安次富	18	年金保険制度② 概要 体系 比嘉
3	医療保険制度① 沿革及び体系 安次富	19	年金保険制度③ 国民年金 比嘉
4	医療保険制度② 安次富	20	年金保険制度④ 厚生年金 比嘉
5	医療保険制度③ 安次富	21	年金保険制度⑤ その他年金制度 比嘉
6	医療保険制度④ 安次富	22	年金制度の管理運営体制 今後の課題 比嘉
7	医療保険制度⑤ 安次富	23	年金制度振り返り 比嘉
8	医療保険制度⑥ 安次富	24	労働保険制度①労働者災害補償保険 青山
9	医療保険制度⑦ 安次富	25	労働保険制度②労働者災害補償保険 青山
10	医療保険制度⑧ 安次富	26	労働保険制度③雇用保険 青山
11	介護保険制度① 安次富	27	労働保険制度④雇用保険 青山
12	介護保険制度② 安次富	28	労働保険制度⑤雇用保険 青山
13	介護保険制度③ 安次富	29	労災保険・雇用保険の管理運営体制 青山
14	介護保険制度④ 安次富	30	労働保険制度 振り返り 青山
15	民間保険と社会保険 安次富	31	後期試験 安次富
16	前期試験 安次富		

【履修上の注意事項】

本科目は、複数の教員が担当するため、前期・後期の第一回目の講義オリエンテーションには必ず出席すること。特に、前期第一回目の講義オリエンテーションに出席しなかった学生は登録を取り消す。

【評価方法】

講義への出席状況、前期・後期で実施する試験点数をもって総合的に評価する。

【テキスト】

中央法規出版「社会保障」社会福祉士養成講座シリーズを指定テキストとする。なお、講義初回のオリエンテーション時の教科書紹介後に購入すること（改訂最新版を使用するため）

【参考文献】

参考書については、講義の中で随時紹介する。

社会理論と社会システム

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、人と社会の関係をどうとらえるかを学び、家庭や地域といった身の回りの社会システムや社会問題を社会学の視点から捉えなおすことである。社会福祉士にとって社会の成り立つ仕組みを知り、人々の関係性や生活世界に対する理解を深め、現代社会の抱える社会問題がどのようなものなのかを知っておくことは業務を遂行するための基礎となるので、ぜひ社会生活のなかで感じる自分なりの疑問に答えを見つけるつもりで受講してほしい。

【授業の展開計画】

本講義では、関連する資料や参考文献の内容を盛り込みながらテキストの解説を行う。学期半ばに中間テスト（小論文）、期末に課題レポートを行って授業に対する理解を確認する。

週	授 業 の 内 容
1	社会学とはなにか：これから学ぶこと
2	生活の理解：生活のとらえ方
3	生活の理解：家族
4	生活の理解：地域
5	人と社会の関係：社会的役割
6	人と社会の関係：社会的行為
7	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯
8	中間テスト（小論文）
9	社会問題の理解：社会問題のとらえ方
10	社会問題の理解：日本社会と社会問題
11	社会問題の理解：共生社会と権利
12	社会問題の理解：社会のグローバル化と社会問題
13	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション（1）
14	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション（2）、期末レポート提出
15	期末レポートの発表討論
16	期末レポート返却

【履修上の注意事項】

中間テスト、期末レポートとも授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。
高校社会科の復習をしておくことが望ましい。

【評価方法】

中間テストおよび期末レポートのほか、出席や授業への参加も加味して評価を行う。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム』中央法規出版、2010年。

【参考文献】

講義の中で適宜、指示する。

就労支援サービス

担当教員 崎濱 秀政

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

「就労支援サービス」は、障害のある人が「働くこと」を通して円滑で安定的な社会生活を獲得し、「働き続ける」ことで自律的に「生きること」を目的としている。また障害のある人自身が「働くこと」により「生活のしやすさ」「生きやすさ」を求め、さまざまな社会資源とつながりながらインクルーシブな社会の構築もめざしたいのである。この講義では、教育分野の役割、福祉分野と労働分野の有機的な施策の連携、実践者の連携こそが「就労支援サービス」であることを理解する。その連携の手段として、障害のある一人ひとりに合わせた個別支援計画の策定とケアマネジメントの重要性も理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 就労支援の意味と社会福祉士の役割
2	就労支援の対象者
3	就労支援の方法
4	就労支援制度と就労支援機関、専門職の役割
5	低所得者と就労支援
6	就労支援とケアマネジメント、就労支援の流れ
7	就労支援ネットワークの必要性
8	就労支援の実際
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害学

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①障害をキーワードに社会を捉えなおす。障害学の入門的講義。
- ②障害者福祉論の講義とは異なる視点から障害や障害者が直面することを問う。
- ③「障害の社会モデル」をベースに社会現象を多角的に分析する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害学とは ～オリエンテーション～
2	障害の定義 ～WHOのICF、医学モデル、社会モデル～
3	障害学の視点 ～コロニアリズム、ジェンダーとの比較を通して～
4	優生思想の考え方
5	出生前診断をめぐる様々な議論
6	日本の障害者運動が主張してきたこと
7	障害者運動の国際的動向
8	ゲストスピーカー①
9	ろう文化
10	知的障害者のアドボカシー
11	ゲストスピーカー②
12	精神障害施策の変遷と脱施設化に向けた取組み～理論と実際
13	メディア、芸術にみる障害者イメージ
14	障害と開発～途上国の障害者からの問いかけ～
15	「沖縄」と障害学
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ①スケジュールはゲストスピーカーの都合等で前後することがあります。
- ②講義で学んだ視点を活かして広く今日の社会を再評価してみましょう。

【評価方法】

- ①レポート
- ②ゲストスピーカーの講演およびビデオの感想

【テキスト】

特定のものはありません。随時紹介します。

【参考文献】

- ①石川准、長瀬修(1999)『障害学への招待』明石書店
- ②石川准、倉本智明(2002)『障害学の主張』明石書店
- ③マイケル・オリバー著、野中、河口訳(2010)『障害学にもとづくソーシャルワーク』金剛出版
- ④堀正嗣編(2012)『共生の障害学～排除と隔離を超えて』明石書店9

障害者に対する支援と障害者自立支援制度

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①「障害」とはいったい何かについて考える ②障害者がたどった歴史について理解を深める ③障害者福祉の理念について理解を深める ④障害者を対象にした法律の変遷を理解すると共に、知識を広める ⑤障害児者が日々の生活の中で直面する問題（教育、雇用、移動、経済的保障、社会参加など）についてその原因と課題について考える ⑥障害当事者の視点から社会福祉サービスを再考する ⑦沖縄の視点から障害者福祉を考える ⑧途上国の障害者福祉について理解を深める

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者福祉の理念～障害者権利条約を中心に
2	障害者福祉の歴史
3	障害の定義：ICF、障害の社会モデル、国内法を中心に
4	自立生活の理念と国内外の動向
5	障害者福祉施策の概要（1）
6	障害者福祉施策の概要（2）
7	諸外国の障害者福祉施策の概要
8	障害児者に関する国際連合の動向
9	障害者の生活と社会福祉施策の課題（1）
10	障害者の生活と社会福祉施策の課題（2）
11	障害者の生活と社会福祉施策の課題（3）
12	障害者の生活と社会福祉施策の課題（4）
13	障害者の生活と社会福祉施策の課題（5）
14	障害者運動の主張と政策への影響
15	障害と開発
16	

【履修上の注意事項】

本講義は障害者福祉の基盤となる定義や理念、政策の変遷を学ぶことが中心であり、障害の機能的理解や支援方法の事例検討は他科目で学ぶと理解してほしい。

配布資料や参考文献をしっかりと読むこと。

授業と並行して、積極的にボランティア活動に参加したりメディア情報にアクセスしたりすることを勧める。

【評価方法】

- ①定期試験(2回)の結果およびレポートの内容
- ②授業態度
- ③その他、ビデオ鑑賞の後に提出してもらう感想など

【テキスト】

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度—障害者福祉論」（最新版）、中央法規

「障害のある人の支援と社会福祉—障害者福祉入門」（2008）、ミネルヴァ書房

「障害者権利条約 日英対訳とコメント～障害者権利条約の批准と完全実施に向けて」JDF

【参考文献】

第1回講義時に提示する

障害児・者心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

神経心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

神経心理学とは、ひとの認知、感情、行動の過程（機能-ソフト面）とその基礎となる脳（構造-ハード面；脳自体にも機能と構造があります）を関連づけて理解することを通して、ひとの認知、感情、行動（心理的過程）の理解をより深めていこうとする学問分野である。この講義では、心理学の研究で明らかになっている心理的過程の知見と脳科学によって明らかになっている知見を対応させ、こころと脳の関連について理解を深めることを目標とする。最も自分に身近であるが、「こころ」と「脳」についてはまだわからないことが多い。わからないことを楽しみつつ、神経心理学の視点からこころと脳について意識的に考える視点を身につけて欲しい。

【授業の展開計画】

初回の講義時に、詳細なシラバスを配布して説明する。

【履修上の注意事項】

授業では、日常における「認知と感情と行動の関係」と「脳の働き」について対応させながら、考えたり、話し合ったりする機会をできるだけ持ちたい。脳とこころについて「主体的に考えること、対話すること」に取り組んでみたい学生の参加を希望する。心理学概論、心理学Ⅰなど心理学の基礎的な科目を履修していることが望ましい。

【評価方法】

平常点：感想シート（出席確認も兼ねる）、クイズへの回答、ワーク等への参加と貢献をもって平常点とする。
ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題を予習ワークシートとして課す。
期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
平常点、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）

【参考文献】

- ・講義の中で、適宜紹介する。
- ・その他、必要な資料は講義時に配布する。

心理学概論

担当教員 前堂 志乃、竹村 明子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講では、心理学の歴史、主要な研究、重要な理論などを幅広く取り上げ、心理学の各専門領域を概説する。心理学全般についての幅広い基礎知識を身につけ、人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点を身につけてもらいたい。この講義はオムニバス形式で開講し前期は前堂、後期は竹村が担当する。前期は、心理学の歴史、研究法、感覚・知覚・記憶・学習・思考・知能・動機づけ・情動・こころと脳、後期は、発達、人格、社会、臨床などを取り上げる。普段は気づかない自分のこころの仕組みを理解し、心理学の幅広さと面白さを知って欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	後期オリエンテーション
2	心理学の歴史と研究法①	18	発達心理学①
3	心理学の歴史と研究法②	19	発達心理学②
4	感覚・知覚①	20	発達心理学③
5	感覚・知覚②	21	人格心理学①
6	記憶①	22	人格心理学②
7	記憶②	23	社会心理学①
8	学習①	24	社会心理学②
9	学習②	25	社会心理学③
10	思考と創造性①	26	社会心理学④
11	思考と創造性・知能②	27	臨床心理学①
12	動機づけ・情動②	28	臨床心理学②
13	動機づけ・情動①	29	臨床心理学③
14	こころと脳①	30	心理学を学ぶことは役に立つのか?①
15	こころと脳②	31	心理学を学ぶことは役に立つのか?②
16			

【履修上の注意事項】

- 水曜 1校時の「心理学概論」のクラスは人間福祉学科の専門科目として開講しています。特に、心理カウンセリング専攻の1年次にとっては重要な基礎科目であるため心理専攻の学生を優先的に登録します。
- 人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する学生は、教職課程の時間割を確認し教職用クラスを受講してください（教職用クラスは隔年開講となり、H27年度は開講されません）。

【評価方法】

- 出席、期末課題、期末試験などを総合し、さらに、前期と後期の成績を総合して評価する。
- 前期と後期それぞれにおいて、出席、レポート、中間試験、期末試験などを課す。
- 詳細については、前・後期の講義初めのオリエンテーションで各担当者の説明を聞いて確認すること。

【テキスト】

初回オリエンテーション時に紹介する

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学基礎演習 A

担当教員 平山篤史、前堂志乃、上田幸彦、井村弘子、泊真児（5クラス）

対象学年 2年

開講時期 前期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、合同ゼミの回がある。実習①および実習④は登録ゼミ担当者が行う。実習②、③、⑤、⑥はローテーションで各種の研究法を体験し、レポートを作成・提出する。レポートは実習①～⑥の合計6つ提出する。実習④はポスター発表会を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション/心理学研究法とは	17	3, 4年ゼミ配属合同説明会
2	実験法とは (合同ゼミ)	18	実習④-1 質問紙調査とは
3	実習①-1 実験テーマの説明	19	実習④-2 質問紙の内容の検討1
4	実習①-2 実験の手続き・実施	20	実習④-3 質問紙の内容の検討2
5	実習①-3 結果の解釈とまとめ	21	実習④-4 質問紙の作成
6	文献検索の仕方	22	実習④-5 質問紙法の実施と入力
7	実習①-4 レポートの書き方と考察	23	実習④-6 質問紙法のデータ分析
8	実習①-5 レポートの添削フィードバック	24	実習④-7 質問紙法の結果のまとめと考察
9	実習②-1	25	実習④-8 質問紙のポスター発表会
10	実習②-2	26	実習⑤-1
11	実習②-3	27	実習⑤-2
12	実習③-1	28	実習⑤-3
13	実習③-2	29	実習⑥-1
14	実習③-3	30	実習⑥-2
15	質問紙調査法オリエンテーション	31	実習⑥-3
16	卒論ゼミのオリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行い、学生全員が、合同ゼミと、ローテーションで5名の担当教員の指導を受ける形式をとる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- 1, 報告書の提出：実習①～⑥と質問紙調査の合計7つの実習報告書をレポートとして提出する。
- 2, ①のレポートの評価と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習B

担当教員 平山篤史、前堂志乃、上田幸彦、井村弘子、泊真児（5クラス）

対象学年 2年

開講時期 後期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、合同ゼミの回がある。実習①および実習④は登録ゼミ担当者が行う。実習②、③、⑤、⑥はローテーションで各種の研究法を体験し、レポートを作成・提出する。レポートは実習①～⑥の合計6つ提出する。実習④はポスター発表会を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション/心理学研究法とは	17	3, 4年ゼミ配属合同説明会
2	実験法とは (合同ゼミ)	18	実習④-1 質問紙調査とは
3	実習①-1 実験テーマの説明	19	実習④-2 質問紙の内容の検討1
4	実習①-2 実験の手続き・実施	20	実習④-3 質問紙の内容の検討2
5	実習①-3 結果の解釈とまとめ	21	実習④-4 質問紙の作成
6	文献検索の仕方	22	実習④-5 質問紙法の実施と入力
7	実習①-4 レポートの書き方と考察	23	実習④-6 質問紙法のデータ分析
8	実習①-5 レポートの添削フィードバック	24	実習④-7 質問紙法の結果のまとめと考察
9	実習②-1	25	実習④-8 質問紙のポスター発表会
10	実習②-2	26	実習⑤-1
11	実習②-3	27	実習⑤-2
12	実習③-1	28	実習⑤-3
13	実習③-2	29	実習⑥-1
14	実習③-3	30	実習⑥-2
15	質問紙調査法オリエンテーション	31	実習⑥-3
16	卒論ゼミのオリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行い、学生全員が、合同ゼミと、ローテーションで5名の担当教員の指導を受ける形式をとる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- 1, 報告書の提出：実習①～⑥と質問紙調査の合計7つの実習報告書をレポートとして提出する。
- 2, ①のレポートの評価と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学研究法 I

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、心理学の研究をしていく手順や方法についての基礎的知識を理解することを目的とする。具体的には、心理学の歴史の過程で採用されてきた各種の研究法についての理論と技法について理解していく。さらに、各種の研究法を組み合わせた、実践的研究法、心理臨床的研究法についても理解していく。最後に、研究の展開の仕方、研究倫理についても理解していく。後期の心理学研究法Ⅱで研究の実際について学ぶために、その前提となる心理学研究法の各研究法の基礎知識を身につけることが目標となる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理学研究法とは何か
3	実験の倫理と方法①
4	実験の倫理と方法②
5	実験の倫理と方法③
6	質的調査－観察・面接・フィールドワーク①
7	質的調査－観察・面接・フィールドワーク②
8	準実験と単一事例実験①
9	準実験と単一事例実験②
10	量的調査－尺度の作成と相関分析①
11	量的調査－尺度の作成と相関分析①
12	量的調査－尺度の作成と相関分析①
13	教育・発達における実践研究
14	臨床における実践研究
15	研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学の基礎科目（心理学概論、心理統計学基礎）を履修済みであることがのぞましい。
- ・初回のオリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。授業の進度に応じて授業計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを配布し説明する。
- ・専門ゼミ（心理学基礎演習A・B、心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ）に関連が深い科目である。それぞれの科目で学んだことを関連づけて理解するようにしてほしい。

【評価方法】

出席確認：感想シート、クイズへの回答などをもって平常点とする（出席確認を兼ねる）。
ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
平常点、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・講義の中で、適宜紹介する。
- ・必要に応じて資料を配付する。

心理学研究法Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講は、心理学研究法Ⅰで学んだ各種研究法に関する基礎知識をベースに、心理学の研究の方法、手続、技法、研究の進め方などについてさらに理解を深め、心理学の研究力を身につけることを目的とする。心理学にはいくつかの代表的な研究手法があるが、中でも研究の基礎となり卒論で最も多用される実験法と質問紙法を取り上げ、実習を交えながら体験的に理解を深めていく。典型的な事例を挙げながら、できるだけ具体的に、研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の策定と吟味、研究の具体化、報告書の執筆、という研究の流れを辿りながら、研究をすることの意味と面白さについてともに考え理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・心理学研究法の基礎知識の再確認
2	実験法①
3	実験法②
4	実験法③
5	実験法④
6	実験法⑤
7	研究する意味・研究テーマの選定・設定
8	研究デザインと研究計画の策定・研究デザインと研究計画の吟味と具体化
9	研究成果の報告①
10	研究成果の報告②・研究のつながりと楽しみ
11	質問紙法①
12	質問紙法②
13	質問紙法③
14	質問紙法④
15	質問紙法⑤・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学研究法Ⅰ、心理学の基礎科目（心理学概論、心理統計学基礎）を履修済みであることがのぞましい。
- ・初回のオリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。授業の進度に応じて授業計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを配布し説明する。
- ・専門ゼミ（心理学基礎演習A・B、心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ）に関連が深い科目である。それぞれの科目で学んだことを関連づけて理解するようにしてほしい。

【評価方法】

出席確認：感想シート、クイズへの回答などをもって平常点とする（出席確認を兼ねる）。
 ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・授業時に適宜紹介する
- ・心理学基礎演習の講義で紹介された参考図書も活用する
- ・その他、初回の講義時に紹介する予定

心理学史

担当教員 中村 完

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理学とはどのような学問か、その端緒に触れる。心理学史学習の目的は何だろうか。心理学誕生の学問的背景について、そして、心理学の誕生から現代心理学に至るまでの移行過程に焦点を当て、その間で確立されてきた心理学の諸学派の研究対象、理論、方法について学習する。また、近年学界で脚光を浴びている臨床心理学と社会心理学とのインターフェースの問題やポジティブ心理学について概説する。日本や沖縄の心理学史についても触れる。なお、心理学史上、由緒ある主要な外国の心理学研究室等も写真で紹介したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、復習的に心理学とは
2	心理学史を学習する目的
3	心理学の哲学的背景、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、デカルト、ロック等の学説と心理学
4	精神物理学；実験心理学の基礎、フェヒナ、ウェーバー、スティーヴンス
5	心理学の独立一ヴントの心理学、心理学実験室の設立、ヴント心理学の内容、彼の貢献
6	機能主義心理学、ジェームズの心理学の内容と貢献、ホール、キャテル
7	精神分析学（1）、フロイトの諸学説の内容と方法、貢献
8	精神分析学（2）、アドラー、ユング、新フロイト派
9	ゲシュタルト心理学、ウェルトハイマー、ケーラー、コフカ、レヴィン等の心理学と貢献
10	行動主義心理学、条件反射実験、ワトソン心理学の内容と貢献
11	新行動主義心理学、トールマン、ハルの心理学、スキナーのオペラント条件づけ
12	認知心理学、背景と主な内容
13	臨床心理学と社会心理学の協働、臨床社会心理学について
14	人間性心理学、ポジティブ心理学、それぞれの立場と内容
15	日本の心理学、沖縄の心理学の動向
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

1. 次回の授業内容について、テキストや参考文献等を通して予習しておくこと。
2. 履修済みの科目や現在履修中の科目とも関連させて、心理学史を体系的・総合的に理解するよう心掛けること。

【評価方法】

評価は、出席を含めた平常の受講態度、レポートの成績、学期末試験等から総合的に行う。

【テキスト】

大山正 著『心理学史－現代心理学の生い立ち－』、サイエンス社、2010年

【参考文献】

- ・梅本暁夫・大山正 編著『心理学史への招待－現代心理学の背景』、サイエンス社、1994年
- ・大山正・上村保子 編著『新訂 心理学史』、放送大学教育振興会、1998年
- ・T. H. リーヒー著／宇津木保 訳『心理学史－心理学的思想の主要な潮流－』、誠信書房、1995年

心理学専門演習 I A

担当教員 前堂 志乃

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講では、卒業研究の前段階として、心理学の各研究法を理解しその手続きを身につけることを目的とする。具体的には、小グループに分かれてのグループ研究を行う。グループでの討議と協働を通して、自らの問題意識とリサーチクエスチョンの関係づけ、文献検索、文献の読み込み、研究テーマの発見、研究デザインの設定、研究計画の策定、実験、調査などの計画・実行、データの収集と分析、報告書の作成と発表という一連の研究活動について体験的に学んでいく。このグループ研究活動を通して卒業研究へと繋げていく。

【授業の展開計画】

- 1週目：オリエンテーション・グループ研究の流れについて
- 2週目：心理学の研究の流れと研究論文について
- 3週目：問題意識とリサーチクエスチョンについて
- 4週目：文献検索と文献レビューについて・研究グループの編成
- 5～6週目：グループ研究①文献の読み込みと文献レビュー発表
- 7～8週目：グループ研究②研究テーマの設定、研究デザインと研究計画について
- 9～10週目：グループ研究③研究デザインの検討と発表
- 11～12週目：グループ研究④研究計画の具体化（実験・調査などの準備）
- 13～14週目：グループ研究⑤研究の実施（データ収集と結果の分析）
- 15週目：グループ研究⑥考察および研究報告書・ポスターの作成・研究報告会

- *前期は、関心のある領域でまとまったグループ研究での活動を実践しながら研究の過程を理解する
- *前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年次での卒業研究につなげるため、グループでのゼミ研究を行う。グループ研究活動へ自発的・積極的に取り組むことを通して、さまざまな意見をもつメンバーと討議・協働しながら1つの研究を立ち上げて一定の結論を得るという達成感を味わって欲しい。心理学専門演習Ⅱ（4年ゼミ）との合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、グループ研究発表（発表レジュメとポスターの作成・研究レポートの提出）、卒論デザイン発表（文献レビュー・卒論のデザインレジュメの提出）などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

- ①都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書は、講義の中で適宜紹介する。

心理学専門演習 I A

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習は卒業論文の前段階として、心理学の各領域の研究方法を理解し、卒業論文のテーマを発見することを目的としている。そのために前期では文献の検索、読み込み、発表を行い、研究に必要な基礎知識を習得する。

【授業の展開計画】

心理学の領域や研究方法について、文献を通して理解を深める。そのために、各自が論文を読み、概要を報告すると同時に、論文の特徴や課題について発表する。その際、その論文のテーマと方法についても十分に理解して説明することが求められる。発表者だけでなく、全員の理解が深まることを目的としているので、受講者全員が主体的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げる論文については講義時に紹介する予定である。

【履修上の注意事項】

この演習は、受講生自身が積極的に考え、行動することを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって参加すること。また、遅刻や欠席をせず、受講することが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

杉本敏夫（著）「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」サイエンス社

【参考文献】

各自のテーマに沿って紹介する。

心理学専門演習 I A

担当教員 泊 真児

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習 I Aの目的は、卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、社会心理学ないし臨床社会心理学的なテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。前期の I Aでは、ゼミ活動を通して、文献のクリティカルな読み方を習得できるようなトレーニングを重点的に行うほか、文献検索の仕方、レジュメのまとめ方、発表の仕方、質疑応答の仕方等を学んでいきます。前期は言わば、そうした「卒論作成基礎力」を身につけることを目標としています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション & ゼミメンバー紹介
2	グループ・ワーク
3	文献検索実習（本学図書館を利用）
4	文献の活用法
5	論文の読み方入門
6	論文の読み方トレーニング(1)
7	論文の読み方トレーニング(2)
8	レジュメ作成・発表・プレゼンの仕方入門
9	個人発表(1)：心理学専門書の発表と討議
10	個人発表(2)：心理学専門書の発表と討議
11	個人発表(3)：心理学専門書の発表と討議
12	個人発表(4)：心理学専門書の発表と討議
13	個人発表(5)：心理学専門書の発表と討議
14	個人発表(6)：心理学専門書の発表と討議
15	個人発表(7)：心理学専門書の発表と討議
16	前期の総括と後期に向けての夏休み課題提示

【履修上の注意事項】

- この授業は遅刻・欠席をせずに参加することが求められます。また、授業への参加態度（各回での発表や質疑応答の仕方、ゼミ活動への積極性など）を重視して評価を行います。
- 個人発表においては、発表者以外の学生にも役割が割り当てられますので、やむを得ない事情がない限り、遅刻・欠席をしないでください。
- 授業の展開計画は、受講者数などの状況に応じて変更となる可能性があります。

【評価方法】

授業への出席および参加態度により評価を行います。成績評価のウェイトは、出席状況が45%、授業への参加態度が55%で、これらを総合して評価を行います。授業内で頻繁に意見表明を求められますので、意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりする場合には評価が低くなります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

- 卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
- 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
 - 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習 I A

担当教員 上田 幸彦

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であり、さまざまな心理学的研究方法があることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。論文講読とディスカッションを通して、現在の臨床心理学の知見がどのようにして得られたのかを理解し、研究テーマ設定、文献検索、仮説構築、検証といった一連の研究手続きができるようになることをねらいとする。領域は、主に中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、リハビリテーション、認知行動療法の中から基礎的な論文を読む予定である。

【授業の展開計画】

前期においては、各自が興味あるテーマを発表したあと、中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、認知行動療法などの領域の基礎的な論文を輪読する。夏休み中には、上記の領域の中から指定された文献の一つを読み書評を書く。夏休み明けから、その概要を報告し、内容についてディスカッションを行う。後期においては、文献の輪読を続けながら、各自関心のある領域の一つを選び、その領域の論文を3つ以上読むことを課題とする。その中の1つについて概要を発表する。最終的には読んだ3つの論文の概要を提出する。適宜、各自の卒論研究についての構想を報告し、全体でディスカッションを行う。

【履修上の注意事項】

自分の発表以外の時に、積極的に疑問を持ち、質問し、考えを述べるのが求められる。授業中に積極的にディスカッションに参加するためには事前準備をしっかりと行うことが必要となる。行動療法、障害児・者心理学、神経心理学を受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への出席状況と、ディスカッションの積極性、前期、後期に提出されたレポートから総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

心理社会的リハビリテーションのキーワード
M.G. イーゼンバーク編 野中 猛・池淵恵美 監訳 岩崎学術出版社

心理学専門演習 I A

担当教員 山入端 津由

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学専門演習 I A

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学の文献・先行研究を精読し、独自の研究計画を立てる。その計画に基づき、心理学研究の研究法の一つである質問紙調査法を用いて実際のデータを収集し、まとめ、発表をする。さらに、自らの研究を再検討しなおし、卒業論文のテーマを設定する。テーマとしては以下のものを取り上げる。

1、大学生の対人交流に関する研究 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に）に関する研究 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

以下の内容で授業を展開する。

- 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集
- 2、文献・論文の精読
- 3、研究計画の作成
- 4、質問紙調査表の作成
- 5、質問紙調査の実施とデータとまとめ
- 6、質問紙調査の結果のまとめと考察
- 7、プレゼンテーションの準備
- 8、研究の再検討
- 9、卒業論文のテーマ設定と研究計画

【履修上の注意事項】

受講生自身が積極的・主体的に考え、意見を述べることを求める。演習の時間だけでは研究を進めることはできない。普段から自分で積極的・自主的に研究を進めていかなければならない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2 「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習 I B

担当教員 前堂 志乃

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講では、卒業研究の前段階として、心理学の各研究法を理解しその手続きを身につけ自らの卒論のテーマを発見し研究計画を立てることを目的とする。心理学専門演習 I Aのグループ研究のゼミ活動を踏まえて、卒論に向けての研究活動を本格的に開始する。まずは、自らの問題意識を整理しながら文献検索、文献の読み込みと発表、問題意識とリサーチクエスションの関係づけ、研究テーマの発見、研究デザインの設定と研究計画の策定（デザイン発表）、実験、調査などの準備、予備実験、予備調査など研究の段階を進めていく。一連の研究活動を進めながら、4年次での研究実施に向けて学んでいく。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：問題意識とリサーチクエスション（卒論の研究テーマの確立に向けて）

3週目：文献検索と文献レビューについて

4週目～11週目：文献紹介とリサーチクエスションの発表（核となる論文の紹介）

12～14週目：卒論の研究テーマと研究デザインの検討

13～15週目：卒論に向けての研究デザイン発表

*後期開始前の夏期休業期間に関心のある領域の文献を検索し読み始めておく

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年次での卒業研究につなげるため、各自興味のある先行研究のレビューを行い、研究テーマを確立し研究デザイン発表の段階まで進める。ゼミでの発表と討議を通して、お互いのリサーチクエスションや研究デザインを洗練させていく。各自が自発的・積極的に取り組み、さまざまな意見をもつメンバーと討議することで、自分の研究テーマを確立していく達成感を味わって欲しい。心理学専門演習 II（4年ゼミ）との合同ゼミ・勉強会も予定しているので学年を超えた学習活動に主体的に参加し相互に刺激し学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、論文紹介発表、文献レビューの提出、卒論研究デザイン発表、各レジュメの提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

- ①都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書は、講義の中で適宜紹介する。

心理学専門演習 I B

担当教員 上田 幸彦

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学専門演習 I B

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で学んだ研究方法を基に、各自の関心あるテーマについてデータを収集し、レポートにまとめる。こうした一連の活動を通して、卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目標としている。

【授業の展開計画】

前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み、大まかな研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

前期と同様、主体的に学ぶこと。遅刻や欠席をせず受講することが前提である。

【評価方法】

演習への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより総合評価する。

【テキスト】

必要に応じて指定する。

【参考文献】

各自のテーマに沿って紹介する。

心理学専門演習 I B

担当教員 山入端 津由

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学専門演習 I B

担当教員 泊 真児

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期の I B は、前期に身につけた「卒論作成基礎力」を応用・発展させる段階と位置づけています。後期は、学生の基礎力の状態や要望等をふまえて、4年次の卒論作成にスムーズに移行できるようなゼミ活動をしていきたいと考えています。具体的には、各自の卒論テーマに関わる文献の発表・討議を行うか、あるいは、グループ研究の形で過去の卒論の追試研究を行う、新たなテーマで研究を行う、等が考えられます。目標としては、「卒論作成応用・実践力」の育成ということになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	夏休み課題に関する個人発表
2	後期のゼミ活動の進め方に関する話し合い
3	後期の活動テーマの決定とガイダンス
4	学術論文の個人発表 or グループ研究(1)
5	学術論文の個人発表 or グループ研究(2)
6	学術論文の個人発表 or グループ研究(3)
7	学術論文の個人発表 or グループ研究(4)
8	学術論文の個人発表 or グループ研究(5)
9	学術論文の個人発表 or グループ研究(6)
10	学術論文の個人発表 or グループ研究(7)
11	学術論文の個人発表 or グループ研究(8)
12	学術論文の個人発表 or グループ研究(9)
13	学術論文の個人発表 or グループ研究(10)
14	学術論文の個人発表 or グループ研究(11)
15	卒論構想予備検討会に向けてのガイダンス
16	予備日

【履修上の注意事項】

- ・この授業は遅刻・欠席をせずに参加することが求められます。また、授業への参加態度（各回での発表や質疑応答の仕方、ゼミ活動への積極性など）を重視して評価を行います。
- ・個人発表においては、発表者以外の学生にも役割が割り当てられますので、やむを得ない事情がない限り、遅刻・欠席をしないでください。
- ・授業の展開計画は、受講者数などの状況に応じて変更となる可能性があります。

【評価方法】

授業への出席および参加態度により評価を行います。成績評価のウェイトは、出席状況が45%、授業への参加態度が55%で、これらを総合して評価します。授業内で頻繁に意見表明を求める機会がありますので、意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりする場合には評価が低くなります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。

- ・白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
- ・都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習 I B

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学専門演習 I A の続きである。心理学の文献・先行研究を精読し、独自の研究計画を立てる。その計画に基づき、心理学研究の研究法の一つである質問紙調査法を用いて実際のデータを収集し、まとめ、発表をする。さらに、自らの研究を再検討しなおし、卒業論文のテーマを設定する。テーマとしては以下のものを取り上げる。
1、大学生の対人交流に関する研究 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に）に関する研究 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

以下の内容で授業を展開する。

- 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集
- 2、文献・論文の精読
- 3、研究計画の作成
- 4、質問紙調査表の作成
- 5、質問紙調査の実施とデータとまとめ
- 6、質問紙調査の結果のまとめと考察
- 7、プレゼンテーションの準備
- 8、研究の再検討
- 9、卒業論文のテーマ設定と研究計画

【履修上の注意事項】

心理学専門演習 I A の続きであるため、原則として同じクラスの心理学専門演習 I A を履修していることが履修の条件である。

受講生自身が積極的・主体的に考え、意見を述べることを求める。演習の時間だけでは研究を進めることはできない。普段から自分で積極的・自主的に研究を進めていかなければならない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポート、卒業論文テーマの発表会でのプレゼンテーション内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習 vol. 2 「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために— 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、4年間の専門領域の学習の集大成として、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文をまとめることである。まず、心理学の各分野についての学習を通して培ってきた自分なりの問題意識をリサーチクエスチョンとし、卒業論文のテーマを設定、関連文献の読み込み、研究デザインの組立と発表を行う。続いて、研究デザインにもとづき適正な研究手続きのもと実験・調査等を行い、データを収集・分析し、卒業論文にまとめ、卒論発表を行う。卒論研究を通して、心理学的なものごとを捉え、深く考察し、得られた結論を発信するという、心理学的思考力と研究力を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：卒業論文の研究デザインと研究計画について

3週目：卒業論文の研究デザインと研究計画の策定

4～7週目：デザイン発表

8～10週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

11～15週目：研究の実施（データ収集と分析）

後期

1～12週目：結果の分析と考察および卒業論文の執筆

13週～15週目：ポスター発表の準備と発表

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年間の心理学に関する学びの集大成となるゼミである。心理学的研究手法の実践を通して卒業論文の作成と発表を達成して欲しい。卒業論文への取り組みを通し、心理学的なものごとを捉え、深く考察し、何かを発見するという、研究する面白さや楽しみをぜひ感じて欲しい。特にグループ研究を推奨する。また、心理学専門演習Ⅰ(3年ゼミ)のゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、デザイン発表や卒論発表、卒論の内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

- ①都筑学(2008)．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文(2008)．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- ③その他の参考図書は、講義の中で適宜紹介する

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 上田 幸彦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文作成を通して、一連の心理学的研究法を修得することが狙いである。これまでに学習してきたことをもとに、各自が関心のある、かつ臨床心理学的にも意義のあるテーマを見だし、そのテーマに沿って文献検索、文献の読み込み、研究計画策定、データ収集、データ分析を行い、データに基づいた結論を導き出せるようにしていく。またテーマ設定、研究計画、データ収集後の中間発表を通して、他者に分かりやすい論理的な文章の書き方を身につけることも狙いとする。

【授業の展開計画】

前期においては3年次での準備に基づき、すぐに研究計画の発表、あるいは予備実験を開始する。その後、データ収集法、データ整理、統計的検定法について個別に具体的な指導を受けながら、夏休み前に、あるいは遅くとも夏休み中には本実験の開始、すなわちデータ収集に入れるようにする。

後期においては、すぐに夏休み中に収集したデータの統計的分析を終わらせ、結果について中間発表を行う。それに基づき、心理学研究論文としての結果の記述の仕方、考察の展開の仕方について個別に指導する。これらの指導を受けながら卒業論文を完成させる。最終的にはポスター発表の形式で成果を報告する。

【履修上の注意事項】

心理学の卒業論文作成は、そのデータ収集に醍醐味がある。最良の状態でこれに取り組めるように計画、準備し実行すること。最終目標は、心理学研究論文としての卒業論文を完成させることである。そのために研究計画、中間報告、最終報告を行うが、それぞれの報告を十分に行うためには、早くから準備すること、時間をかけること、そして主体的に研究を進めていく姿勢が必要とされる。こちらからの指示待ちではなく、積極的に個別指導を活用して欲しい。

【評価方法】

論文作成過程での取り組み方、積極性と提出された論文の内容から総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

APA論文作成マニュアル 江藤裕之他訳 医学書院

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに学習してきたことの集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの見方や考え方、表現の仕方を身につけることを狙いとする。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主として社会心理学的なアプローチにより研究を行う。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究デザインの策定、データの収集と分析、考察、そして論文執筆と発表まで、一連の心理学的研究方法を実践的に学ぶ。この営みを通して、論理的な思考力・表現力を身につけ、生活や仕事にも役立つスキルを高めることを目指す。

【授業の展開計画】

※前・後期共に、各自が定期的にゼミでの発表と討議を行うことを基本とし、これに適宜、個別指導を組み合わせながら進めていく。

●前期

- 1週目：オリエンテーション
- 2～6週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(1)～(5)
- 7週目：卒業論文のデザイン発表会(1)
- 8週目：卒業論文のデザイン発表会(2)
- 9週目：卒業論文のデザイン発表会(3)
- 10～12週目：研究計画の具体化(実験・調査等の準備)
- 13～15週目：研究の実施(データ収集・分析・まとめ)

●後期

- 1～4週目：研究の実施(データ収集・分析・まとめ)
- 5週目：データ分析と考察および卒業論文の執筆
- 6週目：データ分析と考察および卒業論文の執筆
- 7週目：卒業論文中間発表会(1)
- 8週目：卒業論文中間発表会(2)
- 9～11週目：データ分析と考察および卒業論文の執筆
- 12週目：ポスター発表の準備および抄録原稿の作成
- 13週目：ポスター発表の準備および抄録原稿の作成
- 14週目：ポスター発表の予行演習
- 15週目：ポスター発表の予行演習

【履修上の注意事項】

- ・卒業論文作成のためのゼミですから、出席を重視します。
- ・教員やゼミの仲間に相談したり、協力したりしながら、卒業研究を進めましょう。自分勝手な判断で動かないようにしてください。

【評価方法】

毎回のゼミへの出席状況、参加態度、発表や討議、卒業論文作成過程における取り組み方(積極性等)、提出された卒業論文のできばえ等を総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

さしあたり以下の2冊を紹介する。あとはゼミの中で適宜紹介する。

- (1)松井豊 (2010) 改訂新版ー心理学論文の書き方 河出書房新社
- (2)都筑学 (2006) 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで履修した講義、演習等を通して興味を持った問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。すべてのデータ収集の後、データの分析と整理を行い、中間発表を経て論文を作成し最終発表を行う。受講学生が主体性を持って自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。

【授業の展開計画】

前期ではまず、研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。6月上旬をめどにして、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめめる。後期では、収集したデータの分析・考察を行う。10月をめどに研究経過の中間発表を行う。12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終えて、論文を作成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

必要に応じて個別指導と一斉指導を併用しながら演習を展開する。また、卒業論文を作成することを目的としているので、デザイン、中間、最終と各段階での発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには、毎日の地道な積み重ねが必要となるので、各自が卒業論文作成のための綿密な計画、時間管理、就職活動や大学院進学準備との両立など、十分な体制を作っておくことを望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

個別に助言・提示する。

【参考文献】

松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 平山 篤史

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。人のこころに関する現象を明らかにすることの奥の深さ、面白さを体験してほしい。取り上げるテーマは、以下のテーマを設定している。1、大学生の対人交流 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に） 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

4月～6月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討
6月末	研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討）
7月～11月上旬	予備調査とデータ収集
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）
11月下旬～12月上旬	まとめの作業
12月中旬	卒業論文提出
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）
2月中旬	卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

積極的・主体的に研究に取り組む姿勢を求める。
心理学研究の基礎を大切にしつつ、オリジナリティーのある研究を行うことを期待する。
研究は一人で行うのは難しい。ゼミ受講生の相互の協力が必要とされる。互いに助け合い、切磋琢磨し研究を進めることを期待する。

【評価方法】

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学と職業

担当教員 山入端津由、上田幸彦、井村弘子、前堂志乃、泊真児、平山篤史

対象学年 1年

開講時期 その他

単位区分 必

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 夏期集中講義（注意：登録制限単位数40単位に含まれる。）

【授業のねらい】

この講義は心理学を学ぶことで、社会とどのように関わるかについて、心理の専門職を中心に学ぶことを目的としています。調べ学習で様々な心理の専門職について学習した後、実際に、それらの施設を見学し、実際に現場で活躍している心理の専門職の先輩方の講話を聴きます。これらの知識の習得と体験を通して、学生個々人の将来設計や進路を明確にし、今後の大学生活の目標を設定や学習へのモチベーションを高めることを目的としています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	矯正施設の見学①（少年院）
3	少年院の心理職の講話
4	矯正施設の見学②（少年鑑別所）
5	少年鑑別所の心理職の講話
6	福祉施設の見学（児童自立支援施設）
7	児童自立支援施設の心理職の講話
8	精神科病院の見学①
9	精神科病院の見学②
10	精神科病院の心理職の講話
11	教育施設の見学
12	適応指導教室の心理職の講話
13	病院で働く臨床心理士の講話①
14	病院で働く臨床心理士の講話②
15	教育機関で働く臨床心理士の講話③
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

受講態度についてはルールの厳守を徹底します。見学する各施設は、実際に支援を必要とする方々が、生活・利用をしています。受講学生は、それにふさわしい服装、態度で見学に臨んでもらいます。また、団体行動を行います。時間厳守をお願いします。また、施設見学では、個人情報に関する種皮義務も課せられます。詳細については、講義の中で説明します。

【評価方法】

受講態度、出席状況が評価に大きく影響します。さらに、振り返りの時間でのコメント、各プログラム終了後の感想・レポートを総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Aで扱った、心理関連の職業調べ学習の内容を復習しておくこと

心理学特講 C

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学理論と心理的支援

担当教員 一金武 育子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する
2. 人の成長・発達と心理との関係について理解する。
3. 日常生活と心の健康との関係について理解する。
4. 心理的支援の方法と実際について理解する。

この授業では、以上を目的に、心理学の理論と心理的支援について考えていきます。積極的な参加と「感じる心」、個々人の意思の表明に基づく相互理解を通して、ともに作り上げていきたいと思っています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	人の心理学的理解：認知・思考
3	人の心理学的理解：感情・情緒
4	人の心理学的理解：自己理解・他者理解
5	人の成長・発達と心理：人間発達について
6	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について①
7	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について②
8	日常生活と心の健康：心の健康とは？
9	日常生活と心の健康：ストレス社会の実際
10	日常生活と心の健康：ストレスマネジメント
11	心理的支援の方法と実際：援助するということ
12	心理的支援の方法と実際：カウンセリング・マインド
13	心理的支援の方法と実際：交流のワーク
14	心理的支援の方法と実際：傾聴のワーク
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自主的に考え、行動し、人間理解（発達心理学）・心理的支援（臨床心理学）の視点を身に付けてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用は禁止。
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、及び、講義中の退席を基本的に禁止。
- ・必要な質問は適宜、受け付けますので、意思表示をしてください。

【評価方法】

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定せず、適宜資料配付とするが、参考文献（図書）を購入することが望ましい。

【参考文献】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版
石田 潤 他共著 「ダイアグラム心理学」 北大路書房 その他、講義中に適宜紹介する

心理学理論と心理的支援

担当教員 一金武 育子

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する
2. 人の成長・発達と心理との関係について理解する
3. 日常的支援の方法と実際について理解する
4. 心理的支援の方法と実際について理解する

この授業では、以上を目的に、心理学の理論と心理的支援について考えて生きます。積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明に基づく相互理解を通して、ともに作り上げて生きたいと思っています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などについて説明する
2	人の心理学的理解：認知・思考
3	人の心理学的理解：感情・情緒
4	人の心理学的理解：自己理解・他者理解
5	人の成長・発達と心理：人間発達について
6	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について①
7	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について②
8	日常生活と心の健康：心の健康とは？
9	日常生活と心の健康：ストレス社会の実際
10	日常生活と心の健康：ストレスマネジメント
11	心理的支援の方法と実際：援助するということ
12	心理的支援の方法と実際：カウンセリング・マインド
13	心理的支援の方法と実際：交流のワーク
14	心理的支援の方法と実際：傾聴のワーク
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自主的に考え、行動し、人間理解（発達心理学）・心理的支援（臨床心理学）の視点を身につけてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用は禁止
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、及び講義中の退席を基本的に禁止
- ・必要な質問は適宜受け付けますので、意思表示してください。

【評価方法】

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定せず、適宜資料配布とするが、参考文献（図書）を購入することが望ましい。

【参考文献】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版
石田 潤 他共著 「ダイアグラム心理学」 北王子書房 その他、講義中に適宜紹介する。

心理検査法 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査について理解を深める。また、心理検査の実習を通して、心理学的人間理解の意義や方法、専門的手法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を実際に試行し、結果を分析した上で、検査所見をまとめる実習を行う。

【授業の展開計画】

1. パーソナリティ理解のための心理検査
2. パーソナリティの構造とテスト・バッテリー
3. 心理検査と倫理問題
4. 心理検査①-1 (質問紙法・実施法と実習)
5. 心理検査①-2 (質問紙法・理論的背景)
6. 心理検査①-3 (質問紙法・所見のまとめ方)
7. 心理検査②-1 (作業検査法・実施法と実習)
8. 心理検査②-2 (作業検査法・理論的背景)
9. 心理検査②-3 (作業検査法・所見のまとめ方)
10. 心理検査③-1 (投映法その1・実施法と実習)
11. 心理検査③-2 (投映法その1・理論的背景)
12. 心理検査③-3 (投映法その1・所見のまとめ方)
13. 心理検査④-1 (投映法その2・実施法と実習)
14. 心理検査④-2 (投映法その2・理論的背景)
15. 心理検査④-3 (投映法その2・所見のまとめ方)
16. 最終レポート作成・提出

【履修上の注意事項】

使用する検査器具や図版、用紙などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は実習する心理検査についての講義を受け、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で実習を行う必要がある。また、検査結果は実習した検査ごとにレポート提出してもらう。心理検査を実施する過程での倫理上の問題等から、心理検査についての知識が重要であるため、欠席・遅刻の多い学生は受講できなくなることもある。十分に留意して受講してほしい。

【評価方法】

出席状況、提出されたレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック」第2版 西村出版
氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社

心理検査法Ⅱ

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学の人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。

特に心理検査法Ⅱでは知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する検査の実習を実際に施行し、結果を分析、検査所見をまとめる。実際に学齢期のお子さんに検査の協力をお願いし、実習を進めるため、検査に際しての心構え、倫理的な配慮について学ぶことがこの講義で一番重要となる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション / 心理アセスメントとは
2	心理アセスメントと心理検査
3	心理検査と倫理問題①
4	心理検査と倫理問題②
5	知能とは
6	田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査の特徴 ・ 実習前試験
7	検査器具の取り扱いと実施
8	ウェクスラー式知能検査の実施方法
9	田中ビネー式知能検査の実施方法
10	知能検査の実際と結果のフィードバック
11	ウェクスラー式知能検査の結果の整理
12	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①
13	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②
14	田中ビネー式知能検査の解釈と所見のまとめ方①
15	まとめ 人を理解すること
16	

【履修上の注意事項】

使用する検査器具などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は講義、自習を通し、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で検査実習を行う必要がある。また、検査結果をレポートにまとめ提出してもらう。心理検査を実施する上での倫理上の重要な注意点、心理検査についての知識が不可欠であるため、遅刻・欠席の多い者は受講を認めない。*初日のオリエンテーションに重要な説明をする。参加できない者は受講を認めることができない。何らかの事情で初日のオリエンテーションに参加できない者は、事前に相談に来ること。

【評価方法】

出席状況、検査所見レポート2つ、試験（1回）、実習前課題、振り返りのレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

日本版WISC-Ⅲ知能検査 日本文化科学社 / WISC-Ⅲアセスメント事例集 藤田和弘他（編著）日本文化科学社
軽度発達障害児の心理アセスメント 上野一彦他（編）日本文化科学社 / 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版

心理統計学基礎

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は、「心理統計学」「心理学研究法」という心理学研究にとって重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目です。また、心理学基礎演習A・Bで取り組む基礎実験実習、心理学専門演習Ⅰ、心理学専門演習Ⅱで取り組むゼミ研究、卒業研究(論文)につながる学習スキルの基礎を身につける科目でもあります。講義、演習、課題などを通して、心理学研究の中での心理統計学の位置づけや役割を理解し、今後の心理学専門科目の学習に必要な学習スキルと心理データを統計学的に解析する際の基礎知識を身につけることを目指します。

【授業の展開計画】

下記の授業内容を予定していますが、受講者の状況を考慮して、講義内容を変更する場合があります。

週	授 業 の 内 容
1	授業契約・オリエンテーション・統計学初歩：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	変数とデータ～心理学における測定と尺度水準～
3	心理測定の信頼性・妥当性とΣ記号の意味
4	Σ記号を用いた計算&度数分布
5	度数分布とヒストグラム
6	量的データの数値要約：代表値とは何か？
7	量的データの数値要約：散布度とは何か？
8	量的データの数値要約：正規分布・標準得点・偏差値とは何か？
9	量的データの数値要約：標準正規分布と標準得点
10	2変数間の関係の分析1：相関（散布）図の作成
11	2変数間の関係の分析2：相関係数による数値要約
12	2変数間の関係の分析3：質的変数のクロス集計表
13	2変数間の関係の分析4：連関係数による数値要約
14	統計的検定の基礎：推測統計・標本抽出・統計的検定の原理
15	全講義内容のまとめ・振り返り・試験案内
16	学期末試験（予定） ※期末レポート課題に変更する場合があります。

【履修上の注意事項】

- 心理カウンセリング専攻1年次生および2、3年次編入生にとって重要な科目であり、演習課題を伴うため、原則的に履修登録を心理カウンセリング専攻学生に限定します。初回講義欠席者は履修仮登録を削除します。
- 心理統計学や心理学研究法について理解するためには、「自分でやってみる：自分で体験する、自分で気づき、発見する、自分で考えること」が大切です。数字アレルギーを乗り越えて、講義や演習、課題等に自ら積極的に取り組もうとする知的好奇心と自発性を持って受講して欲しいと思います。

【評価方法】

- 成績評価は、出席状況15%、参加態度30～45%、学期末課題40～55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- 授業への参加態度は主に、授業内での課題への取り組み、ホームワーク等により評価します。
- 学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを可」として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

心理統計学 I

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理統計学Ⅱ

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現在の児童の置かれている社会環境はもちろんのこと、児童福祉の理念、発展、制度・サービス、児童が抱える諸問題、児童家庭福祉分野の専門職及び援助活動の実際等について学ぶ。その中で、父母の第一義的養育責任とともに、社会の子育て家庭へのさまざまな支援が児童家庭福祉の重要な課題となっていることを理解する。

【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション
- ②現代社会と子ども家庭 その1
- ③現代社会と子ども家庭 その2
- ④子どもと家庭福祉とは何か その1
- ⑤子どもと家庭福祉とは何か その2
- ⑥子どもと家庭福祉とは何か その3
- ⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 その1
- ⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 その2
- ⑨子ども家庭福祉にかかわる法制度 その3
- ⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 その1
- ⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 その2
- ⑫子ども家庭にかかわる福祉・保健 その3
- ⑬子ども家庭にかかわる福祉・保健 その4
- ⑭子ども家庭への援助活動
- ⑮振り返り
- ⑯テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心をもち、可能ならば新聞等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。さらに、児童家庭福祉に関する法改正等には注目・関心をもつこと。
なお、本科目は社会福祉士国家試験の必修科目となっているため、注意すること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合して評価する。なお、開講時間数の3分の1以上欠席(公欠除く)をすると試験が受けられないので、注意すること。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会 編集(2010)：『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(第2版)』、中央法規。

【参考文献】

ミネルヴァ書房編集部(各年版)：『社会福祉小六法』、ミネルヴァ書房。

人格心理学

担当教員 竹村 明子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

スクールソーシャルワーク論

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、今日の学校現場になぜスクールソーシャルワーカーが必要なのか、またその歴史・動向について理解を深める。そして、学校教育の特徴や教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶとともにスクールソーシャルワーク(以下、SSW)の基礎理論等に関し理解する。さらに、SSWの展開過程や実践について考える。それらを通して、SSWの課題と展望について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の目的、沖縄のSSW事業の現状等
2	学校における現代的課題 その1
3	学校における現代的課題 その2
4	SSWとは？ その1
5	SSWとは？ その2
6	SSWとは？ その3
7	SSWの歴史と動向
8	学校教育の特徴
9	教育(学校)が連携する機関とその機能
10	SSWの基礎理論
11	SSWの展開過程 その1
12	SSWの展開過程 その2
13	SSW実践 その1
14	SSW実践 その2
15	SSWの課題と展望
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、SSWに限らず、子どもを取り巻く環境(学校・地域)に関心をもち、可能ならば新聞等マスコミで取りあげられる記事をスクラップすること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び学期末試験を総合して評価を行う。

【テキスト】

山野・野田・半羽編著(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

日本社会福祉士養成校協会監修(2012)：『スクール[学校]ソーシャルワーク論』中央法規。山下ほか編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』学苑社。門田光司(2010)：『学校ソーシャルワーク実践』ミネルヴァ書房。

ストレス・マネジメント

担当教員 上田 幸彦、他5名

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスについての基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的な支援技法について学ぶ。心理学的な支援技法については、実技も取り入れ、受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対応し、自らの心身の健康の維持増進に資することもねらう。本講義は、専任教員と臨床現場で活躍する臨床心理士がオムニバスで担当し、地域での心理学専門家の役割についてもふれる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/ストレスとは何か
2	ストレスと身体・ストレス関連疾患
3	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因
4	ストレス援助要因①パーソナリティとその研究
5	ストレス援助要因②対人関係とその研究
6	ストレスの測定と評価
7	対処法/リラクゼーション総論
8	理論：自律訓練法
9	実技：自律訓練法
10	理論と実技：呼吸法
11	理論と実技：マインドフルネス瞑想
12	理論：動作法
13	実技：動作法
14	理論と実技：認知行動療法①
15	理論と実技：認知行動療法②
16	試験

【履修上の注意事項】

実技も行うので、真剣に、積極的に取り組んでほしい。

【評価方法】

出席状況・受講態度・授業中に行うミニレポート・試験結果を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する。

精神疾患とその治療

担当教員 知名 孝 他

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この講義では、精神医学の基礎（生物・神経学的、心理学的基礎、疾患・症状という基礎概念、その他精神医学理解のための基礎知識）に関する学習を行う。それをふまえ、各論では代表的な精神疾患についての学習を行っていく。治療論・リハビリテーション論のなかでは、医療的側面だけでなく、福祉、行政、教育、そして社会状況等の要因、あるいは地域文化に根ざした治療など、精神科サービスに付随する様々な取組も含め紹介・学習していく。

【授業の展開計画】

この講義は医療機関の勤務医を中心にオムニバス方式で講義を行っていく。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入・オリエンテーション（知名）	17	気分障害（躁うつ病含む）（長田）
2	精神医学の基礎（才木）	18	気分障害（躁うつ病含む）（長田）
3	精神医学の基礎（才木）	19	職場環境と精神疾患（山本）
4	精神医学の基礎（才木）	20	職場環境と精神疾患（山本）
5	症状性を含む器質性精神障害（小林）	21	心理発達の障害（仲俣）
6	症状性を含む器質性精神障害（小林）	22	小児期・青年期の精神疾患（仲俣）
7	精神作用物質使用（福田）	23	医療観察法と精神障害（唐木）
8	精神作用物質使用（福田）	24	医療観察法と精神障害（唐木）
9	統合失調症（道下）	25	ジェンダー問題と精神疾患（竹下）
10	統合失調症（道下）	26	ジェンダー問題と精神疾患（竹下）
11	統合失調症・治療の方法（道下）	27	心理臨床実践と精神医学（平安）
12	地域精神医療（渡嘉敷）	28	心理臨床実践と精神医学（平安）
13	地域精神医療（渡嘉敷）	29	後期の振り返り
14	神経症性障害（仲俣）	30	テスト
15	人格障害（仲俣）	31	テストの解答・解説
16	前期のまとめ（知名）		

【履修上の注意事項】

この講義は複数講師によるオムニバスにより行われます。

【評価方法】

講義第1回目のオリエンテーション資料に記されたスケジュールと内容に従って、年間の課題が出される。その課題の提出状況、出席、各講師の講義の要約と感想、期末テストを総合的に評価を行う。

【テキスト】

『新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療』（日本精神保健福祉士養成校協会編集・中央法規）

【参考文献】

精神障害者の生活支援システム

担当教員 一兼浜 克弥

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神保健の課題と支援

担当教員 渡邊 浩樹

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この20年足らずの間に社会福祉士、精神保健福祉士や臨床心理士などメンタルヘルスを取りまく資格制度が充実されてきた。それと同じくして、昨今の児童青年期が被害・加害として巻き込まれた凶悪事件、中高年の自殺、職場における精神疾患特にうつ病の問題、性犯罪の問題、軽度（高機能）発達障害の問題など、以前には比較にならないほどの多様なニーズと問題を精神保健福祉はつきつけられている。本講義では精神医療、保健、福祉など様々な現場に対応すべく、精神保健福祉の多様なニーズを紹介しながら問題提起と議論を深めていきたい

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・講義への導入	17	ひきこもり（学校・家庭の精神保健）
2	「精神」保健と社会	18	軽度（高機能）発達障がいと精神保健
3	精神保健の概要	19	児童思春期のうつ病
4	精神疾患について（レビュー）	20	その他児童思春期の精神保健について
5	精神疾患について（レビュー）	21	DVと精神保健
6	ライフサイクルと精神保健福祉（乳幼児期）	22	児童虐待と精神保健
7	ライフサイクルと精神保健福祉（就学前期）	23	中高年の自殺、うつ病、EAP
8	ライフサイクルと精神保健福祉（学童期）	24	アルコール依存症
9	ライフサイクルと精神保健福祉（青年前期）	25	薬物依存症
10	ライフサイクルと精神保健福祉（青年後期）	26	慢性精神疾患と保健・福祉
11	ライフサイクルと精神保健福祉（成人期）	27	慢性精神疾患と保健・福祉
12	ライフサイクルと精神保健福祉（中高年期）	28	諸外国の精神保健福祉
13	精神障害者に対する精神保健福祉	29	
14	老人性痴呆疾患対策	30	全体のまとめとテスト
15	前期まとめ及びテスト	31	
16	いじめと登校拒否（学校精神保健）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テストおよび課題

【テキスト】

講義のなかで指示する。

【参考文献】

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）

担当教員 -高橋 忍(8回)、真栄平 努(8回)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉に関する制度とサービス

担当教員 熊谷 晋(15回)、比嘉俊江(10回)、真栄城兼秀(7回)

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神障害者には我々と等しく社会の中に在りながら、あらゆる権利を奪われてきた歴史がある。その一方で、精神障害者を取り巻く状況—法律、制度、サービス等—は変化し、動き続けている。彼らを支援する精神保健福祉士に求められることは、彼らが歩んできた歴史、現在の状況を知り、より豊かに生きていこうとする過程を彼らの決定を尊重しつつ支援すること。そしてそのために、法律や制度、サービスなどの知識が必要であるということを理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	精神障害者のおかれている現在の状況	17	支援者と当事者の関係について
2	精神障害者の相談援助活動について	18	福祉サービスについて
3	精神障害者の相談援助活動について	19	福祉サービスについて
4	精神保健福祉法成立まで	20	福祉サービスからみる制度の根拠
5	精神保健福祉法成立まで	21	福祉サービスからみる制度の根拠
6	精神保健福祉法について	22	福祉制度が保障することで作られる新たな
7	精神保健福祉法について	23	ノーマライゼーションの振り返り
8	社会保障制度の概要—相談事例から	24	支援する者と支援を受ける者の関係性
9	社会保障制度の概要—相談事例から	25	これからの福祉について生徒と語り合う
10	再考—精神障害者のおかれている状況と精神	26	触法精神障害者への処遇と支援
11	障害者基本法成立の背景について	27	触法精神障害者への処遇と支援
12	障害の定義について	28	触法精神障害者への処遇と支援
13	ノーマライゼーションの理念について	29	触法精神障害者への処遇と支援
14	ICIDHとICFについて	30	触法精神障害者への処遇と支援
15	WHOの健康の定義について	31	まとめ
16	ICFの活用と課題について		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

教科への出席状況で評価

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

担当教員 知名 (20)、山城 (16)、安村 (8)、諸留 (8)、その他6名 (12)

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 8

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

生理心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学の研究方法のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は、最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して、より重要性を増している。生理心理学 I では、こういった現状を鑑み、脳神経系の基礎を重点的に学習する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|---------------|--------------|
| 1 | 生理心理学とは | |
| 2 | 脳の構造 | |
| 3 | 〃 | |
| 4 | ニューロンとシナプス | |
| 5 | 〃 | |
| 6 | 感覚・知覚と脳 | |
| 7 | 〃 | |
| 8 | 運動と脳 | |
| 9 | 〃 | |
| 10 | 本能と脳 | |
| 11 | 〃 | |
| 12 | 情動と脳 | |
| 13 | 〃 | |
| 14 | 自律神経系及び内分泌系と脳 | |
| 15 | 〃 | 16回目にテストを行う。 |

【履修上の注意事項】

I、IIの順で続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果により評価する（試験8割、レポート2割）。試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

生理心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学Ⅱでは、認知過程に関する神経心理学的研究及び、脳波に基づく心身の相互関係等について概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション及び脳神経系に関する基本事項の復習
- 2 薬物と脳（オピオイド、覚醒剤、アルコール等）
- 3 〃
- 4 〃
- 5 言語とラテラルティ （ラテラルティのテスト法）
- 6 〃 （言語野と失語症）
- 7 〃 （言語機能と性差）
- 8 〃 （右半球症状から見た半球機能差）
- 9 脳波の基礎 （測定法・分析法）
- 10 〃 （基本の脳波と異常脳波）
- 11 〃 （睡眠と脳波及び脳波の利用）
- 12 事象関連電位、特にP3の特徴と利用
- 13 筋電図 （測定法）
- 14 〃 （バイオフィードバック）
- 15 〃 （表情の分析） 16回目にテストを行う。

【履修上の注意事項】

生理心理学Ⅰを先に履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果により評価する（試験8割、レポート2割）。試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義時に説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

- ①社会的排除と包摂をキーワードに、福祉ニーズの解決に向けた新たな支援関係編成について追究する。
- ②中でも、新たな社会の担い手として期待されているNPO活動について、多角的に研究する。
- ③沖縄の地域社会の問題を理解し、解決に向けて何が出来るか研究し、小研究としてまとめる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション①演習の目的について	17	夏休みの活度報告会②
2	オリエンテーション②年間計画	18	社会的起業に関する文献購読①
3	現代社会を理解する文献の購読①	19	社会的起業に関する文献購読②
4	現代社会を理解する文献の購読②	20	論文の書き方について
5	協働に関する文献購読①	21	小研究の準備①
6	協働に関する文献購読②	22	小研究の準備②
7	NPO活動支援センター訪問	23	小研究の準備③
8	まちづくりNPO訪問	24	NPO団体訪問
9	ゲストスピーカーによる実践報告	25	ゲストスピーカーによる実践報告
10	個別研究発表会①	26	小研究中間報告会①
11	個別研究発表会②	27	小研究中間報告会②
12	個別研究発表会③	28	小研究中間報告会③
13	個別研究発表会④	29	報告集作成①
14	個別研究発表会⑤	30	報告集作成②
15	夏休みのボランティア活動について	31	
16	夏休みの活動報告会①		

【履修上の注意事項】

- ①演習はゼミ生どおしが活発に関わりあい、知識や経験を共有し、互いに高めあう場である。個々の学生がゼミの仲間と積極的に学びあうことが期待される。
- ②学外の活動やイベント（NPOに関する講演会や研究会、NPO団体の活動など）に積極的に参加することが期待される。
- ③演習時には研究論文を多数読む。日頃から図書館を活用して知識を広げることが期待される。

【評価方法】

- ①演習で取り組む課題の内容
- ②演習および学生による自主的な活動への積極的な参加状況
- ③出席状況
- その他

【テキスト】

第1回演習時に提示する

【参考文献】

第1回演習時に提示する

専門演習 I

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習のねらいは、高齢社会を迎え、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、高齢社会を背景として、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材が強く求められていることから、包括的ケア概念のゼミ演習を中心として展開する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	専門演習ガイダンス	17	グループ課題の報告1、2グループ
2	グループエンカウンター①仲良くなるろう	18	グループ課題の報告1、2グループ
3	グループエンカウンター②仲良くなるろう	19	医療施設見学グループ編成
4	断酒会参加グループ編成	20	医療ソーシャルワーカーの役割
5	断酒会について学ぶ	21	患者様・・・・・・・・
6	断酒会について学ぶ	22	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）
7	学外講師招聘（患者会会長招聘）	23	医療に関わる社会的課題①
8	話題提供 認知症	24	医療に関わる社会的課題②
9	話題提供 医療保険	25	医療に関わる社会的課題個人報告①
10	話題提供 介護保険	26	医療に関わる社会的課題個人報告②
11	話題提供 医療施設の種類	27	医療に関わる社会的課題個人報告③
12	話題提供 介護保険施設の種類	28	医療に関わる社会的課題個人報告④
13	生活習慣病を知ろう①	29	医療に関わる社会的課題個人報告⑤
14	生活習慣病を知ろう②	30	後期振り返り
15	生活習慣病を知ろう③	31	1年間を振り返って
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

本専門演習を履修する学生は、医療福祉論、社会保障、保健医療サービス、高齢者に対する支援と介護保険制度の科目を同時履修することが望ましい。

【評価方法】

演習への出席、受講態度、意見発表の積極性、課題提出状況など総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

演習時に随時紹介する。

専門演習 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

「福祉」「人間」「自我」「倫理」「自由」「障害」などとの関わりについて、理論と実践の両面から、さまざまに考察を試みたい（学生自身がその重要性を他者に伝えたいと感じている問題であれば、どのような問題でも私のゼミでは議論のテーマとすることができる）。授業担当者が専攻とする哲学は、本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、さまざまな問題を多面的に（ときに根底的に）検討することをめざすものなので、この授業でも教員が諸説を紹介するのみならず、学生それぞれが考えていることや感じていることを書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。

【授業の展開計画】

実践的学習

- 社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動に関わる制度の利用で下記のようなワークショップを行う。
- オープンキャンパスや新生の一日合同研修などの機会も利用してのファシリテートの経験を積む。
- 障害児に対する芸術療法に参加しケアの実際を学ぶ（お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む）。
- 農園芸活動を通して園芸福祉を学ぶ。・特別支援教育関連教材教具の開発・製作をこころみる。
- 擬似的に事例を作成して支援のありかたを検討してみる。
- 学会活動の運営に参加し、事業の実務やスキルの初歩を学ぶ（障害学会に参加の予定）。

理論的学習

- 文献探索、議論、テキストの読解、ライティング、調査の初歩を学ぶ。
- 社会福祉の諸問題について知見を広げる。
- 卒業論文のテーマとする問題関心を探索し、吟味のために発表する。
- 障害学、社会哲学、倫理学などのテキストを読み議論を行う。

第1回 オリエンテーション、自己紹介の方法

第2回 上級生との合同ゼミ

第3回 1年次の回顧（基礎演習を中心に）、各人の問題関心の確認

第4回 アカデミック・スキル 文献探索してみる（「人間の尊厳」「自己決定」「隣人愛」）

第5回 アカデミック・スキル 発表してみる

第6回 アカデミック・スキル 議論のしかた

第7回 アカデミック・スキル 文章の書きかた

以降 各人の問題関心に沿って発表・議論 / ワークショップ

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加することが肝要。みずから学ぶ意欲のある受講生をのぞむ。

【評価方法】

- ①授業中の発表、議論、質疑は、内容と積極性の両面からその都度評価（計40点）。
 - ②ワークショップでの活動は、内容と主体性の両面からその都度評価（計40点）。
 - ③レポートなどの提出物（締切をまもったもの）は形式と内容の両面から評価（計20点）。
- 遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。
時間外のワークショップも正規の授業と同様に評価の対象とする。

【テキスト】

倉島保美『論理が伝わる世界標準の「書く技術」』講談社ブルーバックス。
その他、授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

広くは「児童家庭福祉」をテーマとするが、全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞き、学びを深める。
また、授業のねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。

【授業の展開計画】

子どもの抱える問題の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることができない。そのため、子どもを取りまく環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。

ゼミでは特に「スクールソーシャルワーク」と「ソーシャルワークスキル」に焦点をあてて展開する。そのポイントを下記に示す。

「スクールソーシャルワーク」

- ・その現状及び課題
- ・諸外国の現状（英書購読含む）
- ・学校等関係機関訪問 等

「ソーシャルワークスキル」

- ・社会福祉専門職（社会福祉士）として現場で求められるスキル（対個人・グループ）の修得
- ・各機関・施設の社会福祉士らとの交流 等

なお、現場理解のためにボランティア活動及びゼミ単位での施設・機関への訪問も計画している。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度(積極的な参加等)、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

必要に応じ開講時に提示する。

専門演習 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

1. 発達理論：エリクソン、フロイト、M. マーラー、ボウルヴィーなどの発達理論から、人の成長・発達について考えていく。
2. 診断学：発達障害、子ども特有の精神疾患について掘り下げて学習する。DSMやICDなどの疾患分類をきちんと把握する。行動アセスメント・心理アセスメントが理解できるようにする。
3. 地域支援：自立支援法におけるサービスについて制度上の学習、自立支援協議会とそれに付随した分科会の果たす役割。様々な公的機関、各種事業所の役割。
4. 支援理論：支援理論については以下のようにまとめられる。
 - i) ソーシャルワーク理論：機能主義的理論からシステムズ理論に影響されたソーシャルワーク理論、そして昨今のナラティブアプローチなどのソーシャルワーク理論。特に「調整」に関する支援理論を中心に。
 - ii) グループ実践：SST（ソーシャルスキル・トレーニング）、心理教育プログラムなど。
 - iii) ミリエュー（生活場面介入）：TEACCHやABAなど、施設生活・児童デイ生活のなかで具体的な介入のための支援理論を中心に。
 - iv) 面接法：地域支援は人とのやりとり。やりとり法（＝面接法）はSWにとって重要な技術。
5. 実習・実践：児童デイサービスや日中一時支援、児童思春期心療内科クリニックなどでボランティア実習、自立支援協議会の見学、自立支援協議会圏域部会の見学、（ある市町村の）性行動問題部会の見学など。
6. 社会的に考える視点：「子ども達の行動の問題」が投げかける意味（唯物論的意味の検証）、「診断」、「障害」という現象の社会構成主義的認識。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

【テキスト】

ゼミのなかで指定していく

【参考文献】

ゼミのなかで指定していく

専門演習 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

国際福祉の現状や動向をグループ発表形式を行いながらゼミ全体で理解を深めて行く。また、大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた授業を行う。

【授業の展開計画】

授業は議論形式で、国際社会における福祉問題の論点を学んでいく。各回の授業ごとにグループ発表をもとに授業をすすめる。本講義に関連する国際フィールドワークへ参加をすすめ、夏休みにハワイ州のソーシャルワークについて現地で体験学習を実施する。後期には国外、国内および沖縄にある国際社会福祉組織について学ぶ。その中で沖縄県内にある国際機関・組織への訪問学習を実施し現場学習をする

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Orientation	17	Orientation
2	グローバリゼーション時代の意義	18	発表グループ決め、テーマ決め
3	国際社会福祉の意義と展望 I	19	国際フィールドワーク報告
4	国際社会福祉の意義と展望 II	20	Student Presentation ①
5	国際社会福祉の課題	21	Student Presentation ②
6	「拡大する格差」を引き継ぐ未来世代	22	Guest Lecture
7	アジアの貧困と環境問題	23	Student Presentation ③
8	国際社会システムの形成とその視点 I	24	Student Presentation ④
9	国際社会システムの形成とその視点 II	25	Student Presentation ⑤
10	Guest Lecture	26	JICA国際協力フェスティバル参加
11	国際社会福祉の領域における日本の役割	27	Student Presentation ⑥
12	JICA見学ツアー	28	Student Presentation ⑦
13	社会福祉のグローバル化と国際協力	29	Guest Lecture
14	国際社会福祉の新たな方向	30	Student Presentation ⑧
15	沖縄県国際人材育成財団の活動について	31	Family Support Center Visit
16	まとめ		

【履修上の注意事項】

- ・講義は主に英語で行い英語の文献を併用するため、福祉英語基礎、福祉英語 I・IIを履修することや各自で英語の学習をすることが望ましい。
- ・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。

【評価方法】

出席状況、ゼミ内での授業態度、課題研究の内容等総合的に判断する。

【テキスト】

- ・仲村優一、他『グローバリゼーションと国際社会福祉』2002年

【参考文献】

- ・ジェームス ミッジリイ (1999) 『国際社会福祉論』中央法規
- ・M. C. Hokenstad, James Midgley (1997) Issues in International Social Work, NASW Press.
- ・その他、適宜資料を配布または紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 岩田 直子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・社会的排除と包摂に関して、その理論を学ぶと共に、包摂の現状や課題について学ぶ。
- ・参加学生の関心分野においてどのような実践が行われているのか、どのような課題があるのか深く追究する。
- ・論文作成を通して研究することの楽しさと意義を理解する。

【授業の展開計画】

前期は、より議論を深めるために、ディベートを行う。また、課題研究に向けて個人面談を行う。また、前期末に課題研究の面談を実施する。

後期は、課題研究の中間報告を中心に演習を進める。また、卒業論文課題研究発表会の企画運営を進める。

【履修上の注意事項】

- ・ボランティアや実習、講義等でみつけた各自の関心テーマを深く研究することを目標とする。なので、演習時間以外にも、積極的に関連する団体に関わることを期待する。
- ・図書館を活用し、広く視野を広げることを期待する。
- ・ゼミ生どおし互いに高めあい、成長しあうことを期待する。

【評価方法】

出席状況、レポート提出状況およびレポート内容、議論への積極的参加など

【テキスト】

随時、文献および資料を紹介する

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習Ⅱの目的は3点ある。①我が国の医療構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解を深める。②「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。③医療・保健・福祉の領域から、課題を見いだし論究する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション（計画・調整）	17	後期オリエンテーション（計画・調整）
2	我が国の医療資源①人・物・財	18	課題研究テーマ決定のための面談
3	我が国の医療資源②病院・診療所	19	課題研究テーマ決定のための面談
4	沖縄県における医療資源①医療施設	20	課題研究テーマ決定のための面談
5	沖縄県における医療資源②医療施設	21	患者を理解する④社会人招聘（患者会）
6	演習：医療を理解する①	22	課題研究テーマ決定のための面談
7	演習：病院を理解する②	23	課題研究テーマ・研究計画報告
8	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	24	課題研究テーマ・研究計画報告
9	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	25	課題研究テーマ・研究計画報告
10	演習：MSWを理解する①社会人招聘（MSW）	26	課題研究取り組み中間報告
11	演習：MSWを理解する②面接調査（グループ）	27	課題研究取り組み中間報告
12	演習：MSWを理解する③面接調査（グループ）	28	報告会：演習成果を全員で共有する。
13	演習：MSWを理解する④面接調査（グループ）	29	報告会：演習成果を全員で共有する。
14	報告会①：演習成果を全員で共有する。	30	報告会：演習成果を全員で共有する。
15	報告会②：演習成果を全員で共有する。	31	振り返り
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

専門演習については、課題研究のとりくみを中心としたゼミを展開する。各人の研究内容を共有するために毎回進捗状況を報告させる。そのため、ゼミへの出席は必須であるため欠席しないように努めること。

【評価方法】

ゼミ出席状況を主として評価対象とする。また、同演習には課題研究報告書の提出が必須であるため、課題研究中間報告及び最終報告書の提出をもって総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。

【参考文献】

①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他 ②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他 ③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千恵子 ④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他

専門演習Ⅱ

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

「専門演習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、「専門演習Ⅱ」では、各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ゼミのねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。後期には、次年度の卒業論文を見据えて「課題研究」に取り組む。

【授業の展開計画】

子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に、子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。

以下に「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護（施設養護・家庭養護）」及び「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。

- ①「子どもの貧困」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ②「児童虐待」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ③「社会的養護」
 - ・施設養護（本体施設・グループホーム）及び家庭養護（里親・ファミリーホーム）それぞれの現状及び課題
 - ・諸外国の現状
 - ・児童福祉施設・機関訪問 等
- ④「スクールソーシャルワーク」
 - ・その役割・機能
 - ・その現状と課題
 - ・学校等関係機関訪問 等

なお、学生それぞれの関心をもとに個人・グループ単位での調べ学習・プレゼンも行う。

また、後期には「課題研究」に取り組む。

「課題研究」では前期の学びを活かして個人の関心のあるテーマを選定し進めていく。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

子どもの貧困白書編集委員会編(2009)：『子どもの貧困白書』、明石書店。日本子ども家庭総合研究所編(2009)：『子ども虐待対応の手引き』、有斐閣。小木曾ほか編(2013)：『よくわかる社会的養護内容(第2版)』、ミネルヴァ書房。山野・野田・半羽編(2012)：『よくわかるスクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。

専門演習Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

「課題研究」を書くことを目標に重点を置いた内容を行って行く。前期は課題研究の準備として、必要な知識などを確認する。後期は社会福祉や、国際福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成する事になる。作成期間中は、ゼミにおいて進行状況の発表を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	オリエンテーション
2	課題研究について I	18	課題研究指導・作成
3	課題研究設定・グループ分け	19	課題研究指導・作成
4	テーマ・サブテーマの決定	20	課題研究指導・作成
5	課題研究準備	21	課題研究指導・作成
6	課題研究準備	22	課題研究指導・作成
7	課題研究について II	23	課題研究指導・作成
8	課題研究の経過発表準備	24	課題研究発表
9	課題研究の経過発表準備	25	課題研究発表
10	課題研究の経過発表準備	26	課題研究提出
11	グループ発表 I	27	課題研究修正
12	グループ発表 II	28	課題研究修正
13	グループ発表 III	29	課題研究最終提出
14	グループ発表 IV	30	文集作成開始
15	前期まとめ	31	文集作成・まとめ
16			

【履修上の注意事項】

- ・演習は英語と日本語で行い、英語の文献も使用するため、「福祉英語基礎」「福祉英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修することや、各自で英語の学習をすることが望ましい。
- ・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し既定の講義を履修すること。

【評価方法】

出席状況、ゼミ内での授業態度、課題研究の内容等総合的に判断する。

【テキスト】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
演習時に適宜紹介する。

【参考文献】

講義内で、適宜紹介していく。

専門演習Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

学生自身がその重要性を他者に伝えたいと感じている問題であれば、どのような問題でも私のゼミでは議論のテーマとすることができる。授業担当者が専攻とする哲学は、本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討することをめざすものなので、この授業でも教員が諸説を紹介するのみならず、学生それぞれが考えていることや感じていることを書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。3年次は卒論に向けて調査や文献探索など具体的な作業に着手する。

【授業の展開計画】

授業担当者としては、「福祉」と「人間」「自我」「倫理」「自由」「障害」などのかかわりについて、理論と実践の両面から、さまざまに考察を試みたい。想定されるメニューは以下の通りである。

実践的学習

- ・社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動に関わる制度の利用で下記のようなワークショップを行う。
- ・オープンキャンパスや新入生の一泊合同研修などの機会も利用してのファシリテートの経験を積む。
- ・障害児に対する芸術療法に参加しケアの実際を学ぶ(お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む)。
- ・農園芸活動を通して園芸福祉を学ぶ。
- ・特別支援教育関連教材教具の開発・製作をこころみる。
- ・擬似的に事例を作成して支援のありかたを検討してみる。
- ・学会活動の運営に参加し、事業の実務やスキルの初歩を学ぶ(障害学会に参加の予定)。

理論的学習

- ・先行研究の扱い、調査の具体的な手法を学ぶ。
- ・社会福祉の諸問題について知見を広げる。
- ・卒業論文のテーマとする問題関心を探索し、吟味のために発表する。
- ・障害学、社会哲学、倫理学などのテキストを読み議論を行う。

第1回 ふたたび自己紹介の方法

第2回 下級生・上級生との合同ゼミ

第3回 各人の問題関心の確認

第4回 以降 各人の問題関心に沿って発表・議論 / 研究法 / ワークショップ

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加することが肝要。みずから学ぶ意欲のある受講生をのぞむ。

【評価方法】

- ①授業中の発表、議論、質疑は、内容と積極性の両面からその都度評価(計40点)。
 - ②ワークショップでの活動は、内容と主体性の両面からその都度評価(計40点)。
 - ③レポートなどの提出物(締切をまもったもの)は形式と内容の両面から評価(計20点)。
- 遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。
時間外のワークショップも正規の授業と同様に評価の対象とする。

【テキスト】

谷・芦田編著『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。
倉島保美『論理が伝わる世界標準の「書く技術」』講談社ブルーバックス。
授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当演習ゼミは、沖縄の若者世代が抱える今日的な問題を労働、文化、政治の領域に絞り込み、社会学的な視野で調査研究を行う。沖縄は日本の一県にとどまらず、社会的、文化的、政治的に特殊な状況にあり、若者たちの生活や意識のありようにも少なからず影響を及ぼしているものと考えられる。以上のテーマを社会学的に探究することは、今日の沖縄社会の構造およびこれからの沖縄社会の変動を見通すうえで重要である。当ゼミでは社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをとおして、上記諸問題の洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「沖縄における若者世代の今日的な問題に関する社会学的研究」と題する。すなわち、沖縄の若者たちの生活と意識のありようを労働、文化、政治の領域で具体的にに取り上げ、社会学的に分析していこうというものである。

2年次（専門演習Ⅰ）では、前期に社会学の基本的な概念や視覚の学習を行なう。夏期休暇期間中は、先行的な研究の文献・資料等の収集と、社会調査の予備訓練を行う。後期は、若者の労働、文化、政治に関する社会学的な文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。

3年次（専門演習Ⅱ）ゼミでは、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は沖縄島の中南部都市圏の中から取り上げていく。

【履修上の注意事項】

1～2年次で「社会調査の基礎」「社会調査の企画と設計」および「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、自分自身の関心や研究テーマに応じて「都市社会学Ⅰ・Ⅱ」ならびに「家族社会学Ⅰ・Ⅱ」を受講すること。

【評価方法】

専門演習Ⅰは、3年次「専門演習Ⅱ」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、出席状況や受講中の態度、共同学習に対する積極性は当然評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 知名 孝

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

前半は児童思春期のメンタル、虐待ひきこもりや児童虐待等と関連する生活問題について理解を深めていけるような学習をすすめていくようにしたい。後半は学生それぞれが自らの興味関心を見つけることができ、次年度の卒業論文研究へとつなげられるような学習をすすめていく。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題提出、ゼミ活動への参加態度・状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストおよび参考文献についてはゼミの中で連絡する。

【参考文献】

相談援助の基盤と専門職

担当教員 宮城 美智子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

- ・社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について理解する。
- ・相談援助の概念と範囲及び理念について理解する。
- ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
- ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。
- ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

【授業の展開計画】

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 前期オリエンテーション | 1 後期オリエンテーション |
| 2 社会福祉士の役割と意義 | 2 相談援助に係る専門職の概念と範囲① |
| 3 精神保健福祉士の役割と意義 | 3 相談援助に係る専門職の概念と範囲② |
| 4 相談援助の概念と範囲 ① | 4 相談援助に係る専門職の概念と範囲③ |
| 5 相談援助の概念と範囲 ② | 5 相談援助に係る専門職の概念と範囲④ |
| 6 相談援助の概念と範囲 ③ | 6 相談援助に係る専門職の概念と範囲⑤ |
| 7 相談援助の概念と範囲 ④ | 7 相談援助に係る専門職の概念と範囲⑥ |
| 8 相談援助の概念と範囲 ⑤ | 8 専門職倫理と倫理的ジレンマ① |
| 9 相談援助の理念 ① | 9 専門職倫理と倫理的ジレンマ② |
| 10 相談援助の理念 ② | 10 専門職倫理と倫理的ジレンマ③ |
| 11 相談援助の理念 ③ | 11 専門職倫理と倫理的ジレンマ④ |
| 12 相談援助の理念 ④ | 12 総合的包括的な援助と多職種連携について ① |
| 13 相談援助の理念 ⑤ | 13 総合的包括的な援助と多職種連携について ② |
| 14 相談援助における権利擁護とその意義① | 14 総合的包括的な援助と多職種連携について ③ |
| 15 相談援助における権利擁護とその意義② | 15 総合的包括的な援助と多職種連携について ④ |
| 16 前期末テスト | 16 後期末テスト |

【履修上の注意事項】

私語は慎み積極的に学習に取り組むことを求めます。社会福祉の実践を担う専門職(ソーシャルワーカー)に求められることについて関心をもって講義に臨んで下さい。
テキストは毎回持参すること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート、前期・後期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編(2010):『相談援助の基盤と専門職』 中央法規

【参考文献】

柳澤孝主・坂野憲司編(2014):『相談援助の基盤と専門職』 弘文堂

相談援助の理論と方法

担当教員 比嘉 昌哉 オムニバス講義

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 8

【授業のねらい】

本科目では、相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに係る知識と技術、相談援助の実際について学ぶ。

【授業の展開計画】

前期

1. 前期オリエンテーション：授業の目的等
2. 人と環境の交互作用①～③
3. 相談援助の対象①～③
4. 実践モデルとアプローチ①～⑧
5. 前期まとめ

後期

1. 後期オリエンテーション
2. 相談援助の過程①～⑧
3. 相談援助における援助関係①～③
4. 面接技術①～②
5. まとめ

【履修上の注意事項】

本科目は「相談援助演習」や「相談援助実習指導」「相談援助実習」と連結する重要な科目であるということ意識して受講すること。社会福祉士であるソーシャルワーカーが行う業務内容について理論的に理解するとともに事例を通して具体的に学んでほしい。専任教員を中心に非常勤講師含め複数で担当するので各教員の注意事項等をきちんと確認して受講すること。

【評価方法】

出欠、ワークへの参加状況及び各教員の与える諸課題等の評価を元に総合的に評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委(2010)：『相談援助の理論と方法Ⅰ(第2版)』、中央法規。社会福祉士養成講座編集委(2010)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第2版)』、中央法規。各定価2600円。

【参考文献】

授業時に適宜示します。

卒業演習

担当教員 保良 昌徳

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、本学人間福祉学科で学んだ学問的な成果をふり返り、学生各自がその成果をもとに自分なりの課題を設定し、計画に従って研究等に取り組む。卒業研究は、卒業論文の他に、自らの自主的な課題を設定することができる。ただし、以下のすべての条件を満たすことが必要である。

- ① クラスで計画や手順が確認されたものであること。
- ② 本人が責任を持って取り組んだものであること。
- ③ 本人が直接関わったものであること。
- ④ 創造性・先駆性があること。
- ④ 学生としての品格を逸脱しないものであること
- ⑥ 社会的な評価が得られ(た)るものであること。

【授業の展開計画】

本演習は、以下のような計画で取り組む。

前期

- ・各自の課題の明確化
- ・個別指導
- ・課題の取り組み計画の検討・明確化
- ・「卒業課題計画書」の作成と提出
- ・取り組みについての「中間発表会」
- ・夏期休暇中の取り組み計画書の提出
- ・修士論文中間報告会への参加

後期

- ・夏期休暇中の取り組み状況の報告書提出
- ・中間報告会
- ・個別指導
- ・最終報告会の計画・開催
- ・『卒業課題報告書』の作成

【履修上の注意事項】

1. 取り組みの段階を明確に理解し、余裕を持って課題に取り組むこと。
2. 課題の内容や方法については、常に確認をとりながら進めること。
3. レポート等は期限・分量を守ること
4. レポート等の書式・引用等は厳守すること。

【評価方法】

1. 出席・欠席は重視する。(欠席4点、遅刻2点減点)
2. レポート等の提出期限・条件等は重視する。(不提出4点、遅れ2点減点)
指定された書式、分量に満たないものは不提出と見なす。
3. 無断引用が発覚した場合のレポート等は評価の対象としない。
最終提出物に無断引用・使用があった場合は「不可」とする。

【テキスト】

必要に応じて指定または資料等を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指定する。

卒業演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰおよび専門演習Ⅱで積み上げた研究成果を振り返りつつ、卒業論文を作成することを目標とする。論文を作成するプロセスにおいては、自分の研究を深めると共に、他のゼミ生の研究成果からも学び、互いに高め合いながら社会福祉を学術的に問う。

演習では、パワーポイントやレジюмеを準備して研究成果を伝える練習も行う。

【授業の展開計画】

前期：

- ①研究計画作成
- ②個人面談
- ③中間報告

後期：

- ①個人面談
- ②中間報告
- ③卒業論文集の作成
- ④発表会

【履修上の注意事項】

卒業論文作成においては、主体的に取り組む姿勢が求められる。

また、講義や就職活動、国家試験の準備等との両立を図るための工夫と努力が求められる。先行研究、先行調査を収集する際、図書館の機能を活用することを勧める。

【評価方法】

卒業論文作成の取り組み状況
ゼミ活動への積極的参加
出席状況

【テキスト】

【参考文献】

演習の時間に随時情報提供する。

卒業演習

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、まず、問題・課題を含むテーマを決定し（問題発見）、それについて資料収集・社会調査を実施して論理的・実証的に論述（批判的検討）していく。最終的には、テーマに含まれる問題・課題について結論が導き出される（問題解決）ことになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	データ入力・集計方法2
2	卒論作成に向けて概説	18	データ入力・集計方法3
3	卒論研究プロトコル作成法	19	データ集計・分析・執筆1
4	論文の書き方①	20	データ集計・分析・執筆2
5	論文の書き方② 文献、論文検索	21	データ集計・分析・執筆3
6	卒論テーマ作成のための個人面談1	22	データ集計・分析・執筆4
7	卒論テーマ作成のための個人面談2	23	データ集計・分析・執筆5
8	卒論テーマ作成のための個人面談3	24	データ集計・分析・執筆6
9	卒論テーマ作成のための個人面談4	25	卒論発表会1
10	卒論テーマの決定とプロトコル作成	26	卒論発表会2
11	卒論プロトコル提出	27	卒論発表会3
12	調査票作成1	28	卒論・ゼミ論集制作1
13	調査票作成2	29	卒論・ゼミ論集制作2
14	調査依頼	30	卒論・ゼミ論集制作3
15	データ入力方法講義（CPU室にて）	31	振り返り
16	データ入力・集計方法1		

【履修上の注意事項】

初回のゼミ時間に研究テーマにしたい内容を口頭発表できるように整理しておくこと。前期で卒論テーマを確定し、夏休み前に基礎調査等（情報収集を含む）を終了する。なお、安次富ゼミでは量的調査を実施する学生が多いが、調査対象者は原則学生とする。したがって、調査実施は前期終了までに実施するとし、夏休み中に調査結果を集計分析し、粗原稿でよいので文章を完了させることが望ましい。後期には随時個人毎に執筆指導を行う。

【評価方法】

完成した卒業論文を客観的な評価指標とし、中間口頭発表、論文作成過程、ゼミ参加時態度などを考慮して総合評価する。なお、卒業論文の評価は、主査：指導教員 副査：他教員1名の計2名による。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

随時紹介する。

卒業演習

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「卒業演習」では、4年間の集大成として卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて、文献検索、資料収集、調査等を行い、夏季の中間発表を経て、最終的に卒業論文をまとめる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション：年間のスケジュールを確認
- ①「卒論の書き方」・各自テーマ決定（～5月中旬）
- ②個別指導（6月～）
- ③中間報告会（8月中旬）
- ④仮提出【ゼミ】（10月下旬）
- ⑤本提出【社会福祉専攻全体】（12月中旬）

2. 各自テーマの報告
3. 先行研究等の文献・資料収集
4. 個別の進捗状況の報告
5. 個別指導
6. 中間報告会
7. 最終報告会

【履修上の注意事項】

個別指導が主になるが、必要に応じて全体指導を行う。卒業論文は一朝一夕にできあがるものではなく、これまでの学びの積み重ねで作られるものである。そのため、普段から自身のテーマに関心を持ち資料収集を行うなど、より積極的・主体的に取り組むことが望まれる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況および最終的に提出された論文と論文作成への取り組み（そのプロセス）を総合的に判断して評価する。一方、「卒業研究発表」（卒業論文：4単位）は、担当教員が主査、他の教員が副査となって論文審査を行い、最終評価を与える。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

白井利明・高橋一郎(2008)：『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。
その他は、必要に応じて適宜紹介する。

卒業演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を生かして研究テーマを設定する。1年を通して、各自の設定したテーマに基づき研究調査の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	データ入力、分析と集計
2	各自の研究テーマ候補報告	18	データ入力、分析と集計
3	各自の研究テーマ決定	19	データ入力、分析と集計
4	卒業論文研究計画書の作成	20	データ入力、分析と集計
5	論文・参考文献等の検索方法	21	データ入力、分析と集計
6	先行研究等の資料収集	22	データ入力、分析と集計
7	個別指導	23	個別報告と指導
8	個別指導	24	個別報告と指導
9	個別指導	25	個別報告と指導
10	個別指導	26	卒業論文発表会
11	中間発表	27	卒業論文発表会
12	調査票作成	28	卒業論文発表会
13	調査票作成	29	卒業論文集製作
14	個別報告と指導	30	卒業論文集製作
15	個別報告と指導	31	まとめ
16	個別報告と指導		

【履修上の注意事項】

個別指導中心となるが、必要に応じて演習を行う。演習時には活発な議論を求める。

【評価方法】

論文作成の過程と最終的に提出された論文を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで-（中央法規）久田則夫：編 2003年

【参考文献】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年

卒業演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業演習

担当教員 知名 孝

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学4年間の学びにひとつのパンクチュエーションを与えるものとして卒業論文執筆がある。論文執筆作成にかかる作業を行っていきなかに、自らの大学での学びを振り返り、論文という形でつくりあげる作業をすすしていく

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

自らの学習を振り返り、自分が論文としてとりあげたいテーマについて決めておくこと。ある程度の論文についての構想を持つておくこと。

【評価方法】

中間報告、定期的な課題・執筆状況、最終的な論文などを総合的に評価を行う。

【テキスト】

ゼミのなかで指定する。

【参考文献】

卒業演習

担当教員 小柳 正弘

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生自身がその重要性を他者に伝えたいと感じている問題であれば、どのような問題でも私のゼミでは議論のテーマとすることができる。授業担当者が専攻とする哲学は、本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討することをめざすものなので、この授業でも、「ともに考える」ことを中核に据える。4年間の集大成として、理論的には、これまでに履修してきた講義・演習・実習で学んだ知識を生かして卒業論文の完成をめざし、実践的には、これまでの経験を踏まえて、各種のワークショップを主体的にファシリテートし、社会人として必要とされる各種の人間力の錬磨をめざす。

【授業の展開計画】

第1回 問題意識の確認

第2回 下級生との合同ゼミ

第3回 以降 各人の問題関心に沿って調査・発表・議論 / 研究法 / ワークショップ

前期末に卒業研究中間発表会

学年末に卒論／ゼミ論発表会

ワークショップ

- 社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動に関わる制度の利用で下記のようなワークショップを行う。
- ・オープンキャンパスや新入生の一泊合同研修などの機会も利用してのファシリテートの経験を積む。
 - ・障害児に対する芸術療法に参加しケアの実際を学ぶ(お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む)。
 - ・農園芸活動を通して園芸福祉を学ぶ。
 - ・特別支援教育関連教材教具の開発・製作をこころみる。
 - ・擬似的に事例を作成して支援のありかたを検討してみる。
 - ・学会活動の運営に参加し、事業の実務やスキルの初歩を学ぶ(障害学会に参加の予定)。

【履修上の注意事項】

4年間の集大成とすべく主体的に取り組むこと。

【評価方法】

- ①授業中の発表、議論、質疑は、内容と積極性の両面からその都度評価(計40点)。
- ②ワークショップでの活動は、内容と主体性の両面からその都度評価(計20点)。
- ③レポートなどの提出物(締切をまもったもの)・卒業研究中間発表は形式と内容の両面から評価(計20点)。
- ④卒論・ゼミ論発表(20点)。ただし、この発表は単位取得の必要条件。剽窃は不正行為と見なす。
*公欠の扱いは学則の定める通り。遅刻・早退は1/2の欠席。*時間外ワークショップも評価の対象とする。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

地域福祉の理論と方法

担当教員 保良 昌徳・9名でオムニバス講義

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

- ・本講義は、近年の社会福祉実践や政策の展開にとって重要となった「地域福祉」の概念やシステム、方法などについて、体系的に学ぶことを目的とする。特に、社会福祉士として必要な知識、技術、基本的な考え方などを中心に、それぞれ専門従事者の立場から学び、専門的実践家かとしての資質を高める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	登録の確認、講義概要・注意事項など	17	地域福祉計画の実際
2	地域福祉の概念、基本的な考え方	18	社会福祉協議会の役割と実際
3	地域のとらえ方と福祉圏域	19	社会福祉法人の役割と実際
4	地域自立支援と地域福祉の理念	20	特定非営利活動法人の役割と実際
5	地域福祉の発展過程（1）	21	民政委員・児童委員、保護司
6	地域福祉の発展過程（2）	22	福祉産業と企業の役割と実際
7	地域福祉の発展過程（3）	23	地域福祉と専門職・必要とされる専門性
8	社会福祉基礎構造改革とは	24	コミュニティソーシャルワーク
9	新しい福祉システムとしての地域福祉	25	行政と住民参加の実際
10	地域福祉と関連する法律（1）	26	ソーシャルサポートネットワーク
11	地域福祉と関連する法律（2）	27	地域福祉ニーズとソーシャルアクション
12	地域福祉と関連する法律（3）	28	福祉文化の形成と福祉教育
13	地域福祉の実践主体・対象	29	福祉サービスのプロセスと評価
14	地域福祉と財政	30	振り返りとまとめ
15	振り返りとまとめ	31	最終試験
16	期末試験		

【履修上の注意事項】

- ① 講義に関する確認はWEB上で行うので、WEB活用に慣れておくこと。
- ② 資料の配布も、都合上WEBで配信することがあるのでPCの持参が望ましい。
- ③ 支持されたレポートは、分量・形式・内容・提出方法・提出期限を守ること
- ④ 学習状況を確認する場合があるので、ノートはきちんと取り毎回持参すること。

【評価方法】

評価は以下の内容でおこなう

- ① 出席の状況：毎回出欠を取り、最終評価の際も重視する。（欠席4点、遅刻早引き2点減点）
- ② レポート等：内容や期限（提出期限を過ぎたレポートは評価の対象としない）
（またレポートに他人の文章の無断転用がある場合も、評価の対象としない）
- ③ 学習の態度：ノート等の記録状況の確認のためコピーの提出を求める場合がある。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座9『地域福祉の理論と方法』中央法規

【参考文献】

- ・参考となる文献等については、必要に応じて都度紹介する
- ・必要に応じて当日資料を配布する。
- ・配布の方法はWEBでおこなう場合もある。

知覚心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

知覚心理学では、実際に自分の感覚や知覚を通して「世界」を感じて理解する過程を意識的に体験しながら「自分の知覚の仕組み」について理解することが重要である。そのため本講は、さまざまな感覚・知覚刺激の観察や簡単な実験などの体験を行いながら進める。さまざまな知覚体験をきっかけに、人間が外界（身の周りの環境）を理解する基本的な心理的能力である”知覚;Perception”の仕組みについて興味・関心を持ち、心理学では知覚についてどのように捉え研究しているのか理解して欲しい。日頃は意識しない”知覚というところの働き”について目覚めてほしい。

【授業の展開計画】

この講義は、感覚・知覚実験および認知的実験を体験し、その結果について実験グループやクラス全体でディスカッションを行い、知覚の働きについて考えるという形式で進める予定である。実験の材料によって1～2週かけて行うものや、3～4週に渡る場合もある。とり上げる実験と詳細な講義計画については、初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・実験グループづくり
2	知覚とはなにか・五感のメカニズム①
3	実験①盲点の測定・視野測定
4	実験②五感を意識するワーク
5	実験③残像と恒常性
6	実験④色覚①
7	実験⑤色覚②
8	実験⑥視野融合
9	実験⑦注意①
10	実験⑧注意②
11	実験⑨重量弁別①
12	実験⑩重量弁別②
13	実験⑪視覚と聴覚の関連性
14	実験⑫味覚と嗅覚の関連性
15	もういちど知覚とは何か・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学概論もしくは共通科目の心理学Ⅰを履修済みであると理解しやすい。様々な実験器具や材料を使用した小グループでの実験を行うため、希望者が多い場合、心理カウンセリング専攻学生を優先して登録を行う。
- ・知覚心理学では、「自分で体験すること」「自分で気づいて・発見すること」が大切なので、授業や実験に自ら積極的に取り組もうとする好奇心と意欲のある学生の受講を希望します。

【評価方法】

出席、小実験への参加、課題レポートの提出などを総合して評価する予定

【テキスト】

特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する

低所得者に対する支援と生活保護制度

担当教員 一金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国外・国内を問わず社会経済状況は不安定な様相を呈しているが、これまでも、様々な生活問題は、社会構造、生活構造に大きく左右されてきた。貧困、低所得により困窮する市民生活に対して、「公的扶助」を中心とした社会保障・社会福祉制度がセーフティーネットとしての役割を果たしてきた歴史的展開、また「生活保護制度」の具体的な実施方法について学習する。制度の実施に当たって、ソーシャルケースワーカーの役割、支援の在り方について、多くの事例を提示する等により考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	公的扶助の概念及びその意義と役割について
2	社会情勢と貧困・低所得者の生活問題について
3	公的扶助制度の歴史(海外、日本)及び近年の動向
4	生活保護制度の仕組み(原理、原則)について
5	同 (保護の種類)、(権利・義務について)
6	生活保護の財源について
7	生活保護基準の算定方法について
8	生活保護動向について(1)
9	生活保護動向について(2)
10	低所得者対策(生活福祉資金貸付制度)
11	ホームレス対策について
12	福祉事務所及び関係機関の役割について
13	ケースワークの実際とワーカーの役割について
14	生活保護における自立支援の在り方について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で定期する課題についてのレポート及び期末テストの結果による。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座「低所得者に対する支援と生活保護制度」第2版 中央法規

【参考文献】

都市社会学 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

都市社会学Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

認知心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、認知心理学の主要なテーマである、知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識などについて、認知心理学の研究の知見について、文献を読みワークを行うことで理解していく。ワークでは、「日常生活における認知活動」について観察し、考え、ディスカッションをしていく。認知心理学の知見を日常生活と結びつけながら、ひとの認知過程について具体的に理解していくことを目指す。

【授業の展開計画】

講義の初回には、より詳細なシラバスを配布し説明する。クラスの状況によっては講義の計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを再配布し説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	認知とは・認知心理学とは
3	日常における認知過程
4	知覚①
5	知覚②
6	記憶①
7	記憶②
8	注意と意識①
9	注意と意識②
10	認知と情動
11	言語
12	思考・創造性
13	問題解決・考える技術①
14	問題解決・考える技術②
15	認知とは・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

授業では、「ものごと認識すること、理解すること、考えること」というこころの働きと日常における「認知と感情と行動の関係」について、考えたり、話し合ったりする機会をできるだけ持ちたい。主体的に、「考えること」を楽しんでみたい学生の参加を希望する。

【評価方法】

出席確認：ワークシートに講義に関するコメント・感想の記入を課し平常点とする（出席確認も兼ねる）。
 予習・復習ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題を予習・復習ワークとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 平常点、予習・復習ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

授業時に適宜配布する。

発達心理学 I

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学 I（前期）では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史概説する
3	発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する
4	発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）
5	発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）
6	発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）
7	発達理論④：主要な理論について紹介する
8	胎児期：胎児期の発達の様子
9	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子
10	幼児前期：幼児期の発達の様子①
11	幼児後期：幼児期の発達の様子②
12	児童期：児童期の発達の様子
13	青年期①：青年期の課題①
14	青年期②： " ②
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用を禁止。
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、講義中の途中退席を基本的に禁止。
- ・自己管理を適切に行ってください。
- ・質問や、申し出は適宜受け付けますので、先延ばしにせず意思表示を。

【評価方法】

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

発達心理学Ⅱ

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達理論①：主要な理論について紹介する
3	発達理論②：主要な理論について紹介する
4	発達理論③：主要な理論について紹介する
5	胎児期から青年期①：概観①
6	胎児期から青年期②：概観②
7	青年期：青年期の課題
8	成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題
9	成人前期：成人前期の発達の様子②適応
10	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題
11	成人中期：成人中期の発達の様子②適応
12	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題
13	発達課題について：まとめ
14	発達研究：展望と課題
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用を禁止。
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、講義中の途中退席を基本的に禁止。
- ・自己管理を適切に行ってください。
- ・質問や、申し出は適宜受け付けますので、先延ばしにせず意思表示を。

【評価方法】

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

発達臨床心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

犯罪心理学

担当教員 山入端 津由(8回)、金城 正典(8回)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

福祉英語 I

担当教員 ーロビソソ サイソ

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

To cover basic English from a communicative perspective, focusing on partnerwork where students will talk about themselves and ask and answer questions.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation, basic self-introductions - introduction, listening
2	Basic self-introductions - structured speaking practice, free speaking practice
3	Personal Information - introduction, listening
4	Personal Information - structured speaking practice
5	Personal Information - free speaking practice.
6	Can and Can't - introduction, listening
7	Can and Can't - structured speaking practice
8	Can and Can't - free speaking practice.
9	Time - listening, structured speaking practice
10	Daily Activities - listening, structured speaking practice
11	Daily Activities - free speaking practice.
12	Rooms - introduction, listening
13	Rooms - structured speaking practice, free speaking practice
14	Exam Preparation
15	Exam
16	Exam feedback, final speaking activity

【履修上の注意事項】

Regular attendance is extremely important for this course, as is timely completion of the assignments.

【評価方法】

Students will be assessed based on a final speaking exam.

【テキスト】

Students will use Fifty Fifty Book One, available from the university bookshop

【参考文献】

福祉行財政と福祉計画

担当教員 一金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

福祉サービス組織と経営

担当教員 神谷 牧人

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は福祉サービスの組織経営に必要な知識・理論・手法を学ぶ。また『経営者としての視点で物事を捉える』ことや管理者として必要なビジネススキル(考察・検証・提案)、コミュニケーション能力の習得を目的として講義を進めていく。そのため、「教科書を読むだけ」の学習ではなく、グループワークやブレインストーミング、プレゼンテーション等を通じた参加型の講義形態・方法をとる。さらに、①課題分析力(課題解決力)、②ビジョン・イマジネーション、③プレゼンテーション・スキルを学び、企業・行政・福祉サービス提供法人から選ばれる人材(社会人)としてのスキルを身につける。福祉の世界で仕事がしたい学生や将来経営に携わりたい学生にオススメ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション (グループ編成)
2	福祉サービスにおける経営の必要性について
3	法人の種類(社会福祉法人、株式会社、NPOのちがい)
4	(山形) 事業選定(各事業の説明)
5	事業計画Ⅰ(事業計画策定のヒント)
6	福祉経営におけるマーケティングⅠ
7	福祉経営におけるマーケティングⅡ
8	(リハ学会) 経営と財務管理
9	資金の流れ
10	戦略の基礎概念
11	経営戦略の種類
12	事業計画Ⅱ(事業計画策定)
13	事業計画Ⅲ(事業計画策定)
14	プレゼン資料作成
15	プレゼン資料作成
16	最終発表 (プレゼン)

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席点 ($\alpha \times$ 出席回数) + 課題点 (プレゼンの内容 + 事業計画書)

【テキスト】

【参考文献】

福祉の思想

担当教員 下村 英視

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

福祉とはその人にとっての「よさ」の実現であり、そのために努力する社会（国家）をつくってゆくのが、私たちの務めです。科学技術の探究も行政の施策も、これへと向かう努力の現れに他なりません。しかし、歴史的に見れば、福祉の名の下に迫害と差別（劣った人間だから情けをかけてやろう、気の毒な人たちを増やさないために生殖を禁じよう）がなされてきた事実があります。このような意識の根底に根を張る精神を問いなおすことによって、福祉の理論を練ることを試みます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	科学技術は福祉を支えるか（1）生命の誕生に手を差し入れる人間
2	科学技術は福祉を支えるか（2）再生医療について考える
3	科学技術は福祉を支えるか（3）延命と障がい
4	死を問いの中に置く（1）尊厳死についての議論
5	死を問いの中に置く（2）財としての健康
6	死を問いの中に置く（3）死に学ぶ
7	生と死をつなぐ思想（1）高史明とやさしさの思想
8	生と死をつなぐ思想（2）言葉をもつことの不幸
9	生と死をつなぐ思想（3）言葉をもつことの不幸を乗り越える
10	存在を肯定する言葉（1）『怒りの葡萄』が問いかけるもの
11	存在を肯定する言葉（2）合理性に支えられた論理
12	存在を肯定する言葉（3）福祉の原理
13	「分ける」思想と対峙する（1）日本のハンセン病問題
14	「分ける」思想と対峙する（2）人を縛るもの
15	「分ける」思想と対峙する（3）人の傍らで生きる
16	試験

【履修上の注意事項】

一定の知識を身につけ、これらを適宜引き出してものごとを処理していく力には、高い評価が伴います。しかし、それだけが価値のあることではありません。人間を理解し肯定するための思索は、能率とか効率という観点からはおよそ評価されにくいことですが、とても大切なことです。福祉の学びとは、むしろこちら側にあるのではないのでしょうか。この学びに参加してください。

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

下村英視『人間存在の探究——福祉の理論のために——』ボーダーインク

【参考文献】

福祉レクリエーション技術 I

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

福祉レクリエーション技術Ⅱ

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。なお、後期開講の「基礎演習」は「フレッシュマンセミナー」と同じアカデミックアドバイザーのクラスに登録すること。

【授業の展開計画】

本科目は初年次学生向けのオリエンテーション的な内容であるため、大学生活や大学環境・サービス・仕組み等について理解していくことを内容に盛り込んでいく（図書館オリエンテーションも含む）。

また、人間福祉学科全体（心理カウンセリング専攻学生と）の合同プログラムも予定している。つまり、5月には福祉・心理専攻新入生合同の“一日研修”を本学体育館で開催し、福祉レクや心理学的ゲーム、障害者スポーツなど専攻の枠を越えて全体で体験し“仲間づくり”を目的としたプログラムを予定している。

さらに、専攻各教員をアカデミックアドバイザーとしたクラス別の個別ゼミにおいては、ゼミ担当教員の個性や専門領域に合わせた内容で大学生活の基礎作りを目指してプログラムを行う。その中では、アカデミックアドバイザーによる個別の履修指導やその他学生生活の相談等も行う。

【履修上の注意事項】

成績評価と関連するが、出席状況とプログラムへの取り組みが大きな目安となる。よって、出席と積極的な姿勢を心がけること。

【評価方法】

全体ゼミや個別クラスにおける出席状況を重視するが、個々のプログラムに取り組む姿勢等も考慮する。なお、最終評価は各アカデミックアドバイザーからの報告をもって行う。

【テキスト】

プリント等を配布する。

【参考文献】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 知名 孝

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。

【授業の展開計画】

専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するもので授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。

【履修上の注意事項】

調べ学習、発表、グループワーク、ボランティア実習などさまざまなゼミ活動を行っていく。

【評価方法】

ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態

単位数 2

【授業のねらい】

この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。なお、後期開講の「基礎演習」は「フレッシュマンセミナー」と同じアカデミックアドバイザーのクラスに登録すること。

【授業の展開計画】

本科目は初年次学生向けのオリエンテーション的な内容であるため、大学生活や大学環境・サービス・仕組み等について理解していくことを内容に盛り込んでいく（図書館オリエンテーションも含む）。

また、人間福祉学科全体（心理カウンセリング専攻学生と）の合同プログラムも予定している。つまり、5月には福祉・心理専攻新入生合同の“一日研修”を本学体育館で開催し、福祉レクや心理学的ゲーム、障害者スポーツなど専攻の枠を越えて全体で体験し“仲間づくり”を目的としたプログラムを予定している。

さらに、専攻各教員をアカデミックアドバイザーとしたクラス別の個別ゼミにおいては、ゼミ担当教員の個性や専門領域に合わせた内容で大学生活の基礎作りを目指してプログラムを行う。その中では、アカデミックアドバイザーによる個別の履修指導やその他学生生活の相談等も行う。

【履修上の注意事項】

成績評価と関連するが、出席状況とプログラムへの取り組みが大きな目安となる。よって、出席と積極的な姿勢を心がけること。

【評価方法】

全体ゼミや個別クラスにおける出席状況を重視するが、個々のプログラムに取り組む姿勢等も考慮する。なお、最終評価は各アカデミックアドバイザーからの報告をもって行う。

【テキスト】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

保健医療サービス

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わが国における保健医療サービスの基本構造とその変遷を知り、また、高齢社会を背景として、保健・医療・福祉の連携のあり方を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	保健医療サービスとその構成要素
3	医療資源①
4	医療資源②
5	医療資源③
6	医療資源④
7	保健医療サービスの専門職とその役割①
8	保健医療サービスの専門職とその役割②
9	関連法規①
10	関連法規②
11	医療資源間連携
12	医療職種間連携
13	保健・医療・福祉の連携
14	医療の出口に福祉有り
15	講義の振り返り
16	試験

【履修上の注意事項】

講義ガイダンスには必ず出席するようにしてください。欠席の場合には登録をとりけすこともあります。原則として、期末試験を実施しますが、中間試験の実施を予定しています。

【評価方法】

出席状況及び客観試験点数を評価対象にします。なお、客観試験は複数回実施する予定です。

【テキスト】

新・社会福祉養成講座17「保健医療サービス」（中央法規）

【参考文献】

「国民衛生の動向」「厚生労働白書」を参照することが望ましい。図書館及び厚生労働省ホームページから参照することができます。

ボランティア・NPO論

担当教員 一住 直広

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

行政運営が厳しさを増す中、まちづくりへの多様な主体の参画、セクター毎の役割分担が求められています。そんな中、NPOを含めた市民の果たす役割はますます重要になってきています。私たちは、これからの社会において、個人個人の意思決定と行動と責任が求められますが、この講義ではそのためのノウハウ、実践論を学ぶことを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	NPO、ボランティアとは
3	社会の発展
4	社会学的想像力
5	社会のしくみ
6	市民社会とは
7	メディアリテラシー、リサーチリテラシー
8	地域を知る方法
9	地域を変える方法①
10	地域を変える方法②
11	地域を支える経済的しくみ①
12	地域を支える経済的しくみ②
13	地域に参加する技法（参加型グループ学習）①
14	地域に参加する技法（参加型グループ学習）②
15	
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

レポート、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

ボランティア演習

担当教員 一砂川 亜紀美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、①実践を通して体験的にボランティア活動の意義について理解するとともに、②実際にボランティア活動を実施するために必要なスキル（企画・設計・実践）を習得し、③将来ボランティアの活動を支援するリーダーとして活動できる人材を育成することを目的とする。取り組み方法としては、ボランティアに関する情報収集・企画・設計を行い、ボランティア活動の実践へ繋げ、特に大学と地域が連携する事業に協力し積極的に取り組む。また、実践したことから得られた成果や課題等を明確にするために活動報告会及び報告書作成を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	地域連携活動の実践／フィールドワーク①
2	ボランティア活動とは	18	地域連携活動の実践／フィールドワーク②
3	地域のニーズ発掘・調査①	19	地域連携活動の実践／フィールドワーク③
4	地域のニーズ発掘・調査②	20	地域連携活動の実践／フィールドワーク④
5	地域のニーズ発掘・調査③	21	活動の振り返り①
6	地域のニーズ発掘・調査④	22	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑤
7	調査のまとめ・報告①	23	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑥
8	調査のまとめ・報告②	24	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑦
9	調査のまとめ・報告③	25	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑧
10	調査のまとめ・報告④	26	活動の振り返り②
11	地域連携活動企画・設計①	27	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑨
12	地域連携活動企画・設計②	28	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑩
13	地域連携活動企画・設計③	29	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑪
14	地域連携活動企画・設計④	30	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑫
15	前期まとめ	31	全体のまとめ
16	後期オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ①知識や経験を共有しあう場となるよう主体的に取り組み、自己アピールができる者を優先する。
- ②土曜日2限目にボランティア活動ができる者を優先する。
- ③時間を守り、責任を持ってボランティア活動ができる者を優先する。
- ④人間福祉学科以外の学生も履修可能とする。

【評価方法】

授業への出席状況、小レポート提出状況、活動への参加態度（積極性、リーダー性など）、活動報告書提出状況、レポート提出等により総合的に評価する。

【テキスト】

講義の中で適宜紹介していく。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介していく。

臨床心理学 I

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学 I」においては、臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域
3. 臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準
4. 臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）
5. 臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティー障害など）
6. 臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）
7. 臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）
8. 臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）
9. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）
10. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティーの評価）
11. 臨床心理学的方法：心理療法 1（来談者中心療法・認知療法など）
12. 臨床心理学的方法：心理療法 2（箱庭療法・芸術療法など）
13. 臨床心理学的方法：心理療法 3（家族療法・短期療法）
14. 臨床心理学的方法：心理療法 4（家族療法・短期療法）
15. 臨床心理学的方法：まとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

各講義時に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学 I

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

臨床心理学Ⅱ

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害1：特徴について
3. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害2：対応について
4. 臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割
5. 臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析
6. 臨床心理学的方法：投影法1 P-Fスタディー
7. 臨床心理学的方法：投影法2 ロールシャッハ・テスト
8. 臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法を中心に）
9. 臨床心理学的トピック1：治療的コミュニケーションの語用論
10. 臨床心理学的トピック2：短期療法と治療言語
11. 臨床心理学的方法：短期療法1（MRIアプローチ）
12. 臨床心理学的方法：短期療法2（BFTCアプローチ）
13. 臨床心理学的トピック3：青少年の薬物依存
14. 臨床心理学的トピック4：心と現代の脳科学
15. 全体のまとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ」を受講していることが望ましい。
講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜資料を配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

臨床面接法 I

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

乳幼児期から老年期までの各発達段階における心理臨床的援助の特徴、基本的な留意点を解説する。また、その発達段階における事例を紹介し、それに関するディスカッションも行う。講義を通して、受講者が心理臨床の支援の大枠を理解し、その奥深さを感じ取る。講義とディスカッションを通し、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、人間について多角的な視点で見る力、考える力を伸ばすことをねらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理臨床的援助のモデル、心理臨床的援助の過程
3	正常と異常、自我の機能と病態水準
4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）
5	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）
6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期・事例）
7	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期）
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期・事例）
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期）
10	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期・事例）
11	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）
12	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期・事例）
13	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）
14	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期・事例）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みのこと。（同時履修は可能）

講義中の私語や携帯電話は厳禁。受講者参加型の講義形式をとるため、受講者には自ら積極的に考える態度を求める。毎回の講義の後に講義・ディスカッションでの感想を提出する。抽選となった場合は、4年次より優先し抽選する予定である。

【評価方法】

出席状況・毎回の授業の感想、及び期末のレポートにより評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床面接法Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。

【授業の展開計画】

1. はじめに（臨床面接の技法）
2. クライエントの話
3. 感情の反射
4. 焦点づけ
5. クライエントの質問
6. カウンセラーの質問（1）
7. 話し手と聞き手
8. 対話分析
9. クライエントへの応答
10. カウンセラーの質問（2）
11. カウンセラーの質問（3）
12. ケース理解
13. カウンセリングの実際
14. 援助的応答（1）
15. 援助的応答（2）
16. 学期末試験

【履修上の注意事項】

授業では、ペアや小グループでのワークが中心になる。段階を踏みながら臨床面接技法を身につけていくので、遅刻や欠席は厳禁。最後まで主体的な態度・姿勢で出席できる学生のみ受講してほしい。

【評価方法】

毎回ワークシートを配布し、授業の最後に提出してもらう。出席状況（ワークシートの提出状況）、学期末試験を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回、資料とワークシートを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

レクリエーション理論

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

老年学概論 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こる様々な問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追うには成長期から見て行く必要があり、社会的な側面では高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び問題解決のためのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation(オリエンテーション)
2	Challenge of Global Aging (世界全体の高齢化への挑戦)
3	Aging Japan: Healty Urbanization and Aging (日本の高齢社会)
4	Facts on Aging Quiz (高齢者に関わる疑問)
5	History of Aging and Images of Aging (高齢化社会の歴史と廊下のイメージ)
6	Biology of Human Aging I (加齢の生物学的理論 I)
7	Biology of Human Aging II (加齢の生物学的理論 II)
8	Biology of Human Aging III (加齢の生物学的理論 III)
9	Aging, Disability and Frailty I (加齢と障がいの理解 I)
10	Aging, Disability and Frailty II (加齢と障がいの理解 II)
11	Healthy Aging: Cross National Perspectives I (健康長寿: 国際的な展望 I)
12	Healthy Aging: Cross National Perspectives II (健康長寿: 国際的な展望 II)
13	Psychological Aspects of Aging I (加齢の心理的側面 I)
14	Psychological Aspects of Aging II (加齢の心理的側面 II)
15	Understanding Cognitive Disorders (認知症の理解)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・上記の問題においてクラス検討が必要になるので、学生はテキスト、文献等を講義の前に読むこと。

【評価方法】

出席状況(10%)、課題レポートの内容(10%)、講義中の議論内容(10%)、期末試験(70%)など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005) 『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。

【参考文献】

B. J. Willcox, D. C. Willcox and M. Suzuki (2001) The Okinawa Program, Random House.
 柴田 博・長田 久雄・芳賀 博・古谷野 亘 編著(1993) 『老年学入門—学際的アプローチ』 川島書店。
 沖縄タイムス『長寿』取材班 (2004) 『沖縄が長寿でなくなる日』 岩波書店。講義時に適宜紹介する。